件ナヨ-48

達示第廿二號　明治卅七年六月廿二日

看守職務規程

新潟監獄

明治
'37 9 10
全
内交

CZ
965
015

達示第二十二號

各分監
各課所

看守職務規程別紙之通相定ム

但從來ノ規程ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ總テ之ヲ廢止ス

明治三十七年六月二十二日

新潟監獄
典獄 野口謹造

看守職務規程目次

第一編

第一章　職務ノ大要……一
第二章　勤務心得……一八
第三章　工場勤務心得……三〇
第四章　監房勤務心得……四〇
第五章　立番見張勤務心得……四四
第六章　構內外巡警心得……四七
第七章　門衛勤務心得……五〇
第八章　拘置監勤務心得……五四
第九章　炊場勤務心得……五九

第十章　診察立會及病監勤務心得……六三
第十一章　教誨立會心得……六七
第十二章　交代看守及交代時ノ心得……七〇
第十三章　押送及外役勤務心得……七二
第十四章　監房及通身檢査心得……七九
第十五章　差入及購求品檢査心得……八四
第十六章　入浴運動及理髮ノ心得……八七
第十七章　接見書信ニ關スル心得……九〇
第十八章　入出監及訊問所呼出人ニ關スル心得……九五
第十九章　在監人檢束心得……九九
第二十章　在監人動作號令心得……一一一
第二十一章　服裝及帶劍心得……一二五

第二十二章　休暇病氣欠勤看護忌引ニ關スル心得……一三一
第二十三章　詰替戸籍異動及認印名刺ニ關スル心得……一三五
第二十四章　諸願届書式ニ關スル心得……一三七
第二十五章　受附勤務心得……一五二
第二十六章　戒具ノ保管及使用心得……一五五
第二十七章　擊劍練習心得……一五七
第二十八章　操典練習心得……一五九

第二編

關係法規
行狀視察關係……一九九

在監人行狀視察心得
衛生關係……二一六
衛生特務心得
在監人運動規定
身体拭淨及清潔法
記牒……二三九
監守女監取締手帖記載及檢査心得
教習及合宿……二三六
看守教習生心得
合宿所取締規則

休暇……二四一
看守女監取締押丁休暇規則
普通事務ニ從事スル看守休暇ノ件通牒
點檢禮式……二四七
看守點檢規則
監獄官吏禮式法
監獄則關係……二八一
監獄則
監獄則施行細則
看守及傭人分掌例

在監人遵守事項
作業關係……三五二
作業規程
非常事變關係……三六一
非常應變心得
非常召集手續
失火其他事變ニ際警報信號
監獄火災豫防規程
雜錄……三七九
參觀人心得

在監人動作時限表
在監人足袋貸與心得
在監人被服雜具貸與期限
用便時間表
監在人食糧表

看守職務規程

第壹編

第一章 職務ノ大要

第一條 看守ハ職務上及一身上常ニ左ノ事項ヲ服膺スヘシ

一 看守ノ職務ハ專ラ在監人戒護ノ責ニ任スルヲ以テ其動作ハ總テ罪囚矯正感化ノ上ニ至重ノ關係ヲ有ス故ニ之レカ任ニ當ルモノハ常ニ服務ノ內外ヲ問ハス廉耻ヲ貴ヒ節義ヲ重シシ常ニ監獄官吏タル名譽ニ耻チサル樣注意スヘキモノトス

二 看守ハ其職務ニ關スル心得ハ誠實ニ之ヲ盡シ躬行實踐以テ彼等囚人ノ摸範トナリ忠實以テ其上命ヲ奉シ勤勉以テ常務ヲ行ヒ剛毅以テ危難ニ衝リ淸廉以テ其身ヲ持シ嚴重

以テ紀律ヲ守リ慈愛以テ衆ヲ恕シ耐忍以テ憤怒ヲ制シ自重以テ威嚴ヲ保ツ等ノ資格ハ看守トシテ常ニ備フルノ注意アルヲ要ス

三　看守ハ行刑上最モ重要ノ位置ヲ占ムルモノナレハ其一擧一動ハ實ニ監獄紀律ノ張弛ニ關係シ又其分掌スル所ノ事務ニ於テハ頗フル多シト雖モ其重モナルモノヲ心得トシテ第二章以下ニ掲クルヲ以テ看守ハ常ニ之ニ通曉スルノ注意アルヲ要ス

四　看守ハ上官ノ命令ニ對シテハ必ラス之ヲ遵奉スルノ義務アルモノトス苟モ上官ノ命令ニ對シ同僚若クハ在監人ノ面前ニ於テ自己ノ判定ヲ爲スカ又ハ不快ノ擧動ヲ以テ之ヲ冷笑スルカ如キ事アルヘカラス

五　看守ハ上官ノ外監獄醫教誨師等ニ對シテハ常ニ尊敬シ職務ノ秩序ヲ失セサル限リハ之レカ協議ニ應スヘキ者トス

六　看守ハ同僚ニ對シ服務中ハ勿論服務外ト雖モ努メテ平和親密ニ交際シ尚其家族ニ對スルモ亦同樣ナルヿヲ要ス

七　看守ハ監獄則其他監獄ニ關スル諸規則ヲ熟知スヘキハ勿論職務ノ餘暇ニハ武ヲ練リ活潑ノ氣象ヲ養成シ事變ニ際シテハ剛毅不撓ノ精神ヲ以テ進退其度ヲ失フ事ナキヲ要ス

八　看守執務ニ於テハ常ニ囚人ニ對シ囚人ハ畢テ國家ノ法律及秩序ヲ紊乱シタルカ爲之ニ對シ公權ノ及ホス所ヲ執行スルモノナリトノ感念ヲ以テ之ヲ處遇スヘキモノトス

九　看守ハ囚人ニ對シ常ニ公平ナラサルヘカラス若シ囚人ノ取扱ニ於テ依估偏頗ノ事アル時ハ囚人ヲシテ刑罰ハ適法ノ行爲ニ非スシテ却テ不正ノ所爲トナシ刑罰ノ目的上之レカ阻止ヲ招ク事アルヘシ

十　看守ハ刑罰ノ執行上先ツ囚人ニ其所爲ノ不正ナル事ヲ自覺セシムル所アルヲ要ス即彼レヲシテ人權ノ濫用ニ屬シ社會公供的生活秩序ヲ害シタルカ爲メ獨リ已レニ向ツテ不幸ヲ蒙ルノミナラス其眷屬ヲモ不幸ニ沈淪セシムルニ至リタル事ヲ了得セシムヘシ

十一　看守ハ囚人ヲシテ刑罰ハ不正行爲ニ基ク當然ノ結果タルノミナラス又自已ノ改悛ヲ促シ將來再ヒ不正行爲ノ念ヲ起サシメサル必要ノ具タル事ヲ曉ラシムヘシ故ニ刑罰ハ嚴肅ニシテ且純正ニ執行スルヲ要ス

十二　在監人ヲ待遇スルニ虐待スヘカラス若シ此ノ如キ所爲アルトキハ彼等ハ官吏ヲ目シテ粗暴無敎育者ト爲シ却テ其威嚴ヲ減殺スルニ至ルノミナラス嚴重ナル懲戒ニ附セラルヘシ

十三　看守ハ囚人ニ對シ獄則敎令ノ命スル所ハ秋毫ノ假借スル所ナク嚴重ニ之ヲ遵奉セシメ違令犯行ハ大小ニ論ナク悉ク看破シ之ヲ上官ニ申告スヘキモノトス

十四　看守ハ在監人ト無用且輕卒ナル談話ヲ爲ス事ナク凡テ命令スヘキ事ハ靜肅ニ之レヲ令シ粗暴ニ涉ラス親昵ニ流レス寬嚴其中ヲ得テ在監人ヲ所遇スルヲ要ス

十五　看守ハ囚人ノ不幸ヲ憐ミ常ニ同情ヲ表シ若シ囚人ニ於テ愁訴スル事アルニ於テハ冷淡ニ之ヲ却下セス務メテ之ヲ慰撫シ同時ニ其不幸ノ原因ハ自已ノ犯罪ノ然ラシムル所タルヲ曉ラシムルノ注意アルヲ要ス

十六　看守ハ在監人ニ對シ力メテ其威嚴ヲ保ツヘキモノトス威嚴ヲ保タンカ爲メ不當ノ言語ヲ發シ或ハ譴責シ强迫スル等ノ如キ事アラハ却テ自已ノ威嚴ヲ傷ヒ終ニ監獄ノ紀

律ヲ案スニ至ルヘシ看守ノ威嚴トハ在監人ヲシテ其職務ヲ執ル事極メテ嚴格ニシテ且服務ノ内外ヲ問ハス常ニ尊敬スヘキ行ヒヲ爲ス人タル事ヲ確信セシムルニアルモノトス

十七　看守ニシテ其職務ヲ執ル事正實ナラス又ハ職務外ニ於テ品行不正ナルニ於テハ直ニ彼等ハ之ヲ蔑視シ之レカ爲メ監獄ノ威嚴ヲ保ツニ必要ナル尊嚴及刑罰ノ目的ヲシテ終ニ達スル能ハサルニ至ルヘシ

十八　看守ハ如何ナル塲合ニ論ナク囚人ト私交上ノ關係ヲ保ツカ如キ事アルヘカラス即チ囚人ニ對シ自己ノ爲メ窃カニ物品ヲ製作セシメ或ハ囚人ノ爲メニ信書又ハ差入物ノ媒介等ヲ爲スカ如キハ失態ノ大ナルモノト言フヘシ若シ此ノ如キ所行アルトキハ事ノ輕重ヲ問ハス嚴重ナル懲戒處分ヲ受ルニ至ルヘシ

十九　分房ニ於テ晝夜囚人ヲ嚴隔スル主旨ハ同囚相交際スルカ爲メニ感化改良ヲ妨クルノミナラス大ニ罪惡ノ傳播助長スルニ至ルノ弊ナカラシメンカ爲ナリ故ニ看守ハ能ク此主旨ノアル所ヲ服膺シ之ヲ貫徹セシムルノ注意アルヲ要ス

二十　囚人ハ分房ヲ以テ相嚴隔セラル、ニモ拘ハラス陰險狡猾ノ徒ハ動モスレハ種々ナル方法ヲ以テ陰微ノ間ニ通息ヲ試ミ或ハ時アッテハ其目的ヲ達スル事アリ故ニ看守ハ常ニ慧眼ヲ以テ之ヲ看破シ或ハ未發ニ防遏シ或ハ既遂ニ申告スルノ注意ナカルヘカラス

二十一　看守ハ上官ノ命令ニ依リ正當ノ方法ヲ以テ常ニ分房拘禁者ヲ視察訪問スル所アルヲ要ス此關係ハ大ニ同囚相

通息セントスルノ希望ヲ防制スルノ効アルモノトス

二十二　看守ハ監房ヲ視察訪問スル際ニ於テハ最モ周密ノ注意アラサルヘカラス如何ナル場合ニ論ナク監内ノ事情他囚ニ關スル事項又ハ自已若クハ他ノ官吏ノ私事ニ渉ルノ事項其他必要ナキ新奇ノ事項ヲ談話スルヲ禁ス之ヲ要スルニ看守ノ囚人ニ對スル關係區別ハ常ニ堅ク之ヲ保持スヘシ

二十三　雜居房ニ於テハ看守ハ嚴重ニ囚人相互ノ交談ヲ監督シ即チ同囚相交談セシメサルハ管理法ノ本則トシテ嚴禁セサルヘカラス然レ𪜈雜居就役ノ場合ニ於テハ作業ノ必要上絶對ニ交談ヲ禁絶シ能ハサル事情ナキニ非ス故ニ看守ハ能ク監獄則ノ主旨ヲ了得シ成ルヘク之ヲ制限シテ濫用セシメサルノ注意アルヲ要ス如何ナル場合ト雖𪜈長談

ニ渉ル事ヲ嚴禁スヘシ

二十四　受持看守ノ勤務ハ監房工場其他一定ノ區域及人員ニ就キ其受持ヲ定メテ之ヲ管掌セシム故ニ其受持部内ノ器具器械人員等ニ關スル総テノ責任ヲ有スルモノトス若シ備品ニシテ増減修補ノ必要アル場合ニ於テハ一々看守長ノ指揮ヲ受ケ濫リニ増減修補スル事ヲ得ス

二十五　囚人ニシテ看守ノ命令ニ對シ從順ナラサルモノアル時ハ決シテ寛恕スヘカラス命令ハ嚴肅明瞭ナル音聲ヲ以テシ急劇ニシテ高聲ニ失スルカ如キ事アルヘカラス若シ囚人直ニ命ニ應セサル時ハ再度之ニ令シ其注意ヲ促スヘシ然ルニ尚之ニ應セサル時ハ直ニ之ヲ看守長ニ申告スヘシ

第二條　看守ハ戒護撿束ニ就キ常ニ左ノ事項ヲ服膺スヘシ

一　看守ハ正確ニ在監人ヲ檢束スルノ責任アルモノトス若シ不都合アリタル場合ニ於テハ嚴重ナル懲罰處分若クハ刑法ノ制裁ヲ受クルコトアルヘシ

二　檢束ノ要ハ先ツ在監人ヲシテ如何ナル方法手段ヲ以テスルモ到底檢束ヲ苟免シ得ヘカラストノ確信ヲ起サシムルニ在リ故ニ毫髮ノ間隙ト雖モ彼レヲシテ苟免ヲ窺覦セシムルカ如キ事ナカラシムルヲ要ス

三　在監人ハ常ニ之ヲ監房工場等嚴重ナル周障ノ内ニ拘禁スルト雖モ其運動教誨召喚沐浴外役其他止ムヲ得スシテ工場監房外ニ引卒スル場合ニ於テハ殊ニ最モ其戒護ヲ嚴重ナラシムルノ注意アルヲ要ス

四　在監人ハ如何ナル事情アルヲ問ハス監獄搆内ト雖モ決シテ獨歩セシムヘカラス

五　監獄ノ門戸ハ大小ヲ問ハス総テ常ニ嚴重ニ之ヲ閉鎖シ置キ關係ナキモノヽ出入ヲ峻拒スヘシ戒護者ナキ所ノ在監人ハ決シテ出門ヲ許サヽルハ勿論其戒護者アル場合ト雖モ其門衛看守ニ人員ノ報告アルニアラサレハ出門セシムヘカラス

六　監房工場倉庫物置其他監獄搆内ノ諸建物ハ常ニ鎖鑰ヲ施シアルヲ以テ若シ欠損アルヲ認メタル場合ハ直ニ看守長ニ申告シ猶豫ナク之ヲ保全スルノ注意アルヲ要ス

七　監房其他ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ之ヲ備ヒ決シテ他ノ場所ニ放置シ若クハ散乱セシムルカ如キ事アルヘカラス如何ナル場合ニ論ナク在監人ニ鑰匙ヲ托スルカ如キ事アルヘカラス

八　鑰匙ニハ各其場所ノ記號ヲ書シタル木札ヲ付シ之ヲ秩序

九　克ク箱ノ中ニ保存シ置クヲ要ス

素品製品器具薪灰不用品其他何等ノ物品ニ拘ハラス監獄構内ニ積重シ又ハ散在シ置クカ如キ事アルヘカラス其必要ナキモノハ棄却シ必要アルモノハ嚴重ニ之レ繫鎖シ置クヲ要ス殊ニ楷子其他ノ器械類ニシテ攀越ニ供シ逃脫ニ便スルノ虞アル所ノモノハ必ズ相當ノ締アル場所ニ之ヲ保管スヘシ

十　運搬修繕其他建築上ノ必要ニ依リ監外人ノ器械類ヲ持參シテ監獄構内ニ勞作シアル者アル場合ニ於テハ之ヲ戒護スル看守ハ嚴密ニ其擧動ヲ監視シ囚人ト相接近セシメサルノ注意アルヲ要ス

十一　監房及通身ノ檢査ハ檢束上至大ノ關係アル者ニシテ紀律確保上最モ必要ナルノミナラス看守ノ最モ主要ナル職務ノ一ニ屬ス故ニ精密ナル檢査ヲ施シ破監等ノ用ニ供スル包藏物ナキヤ否ヤニ注意スヘシ

十二　看守ハ囚人ヲシテ就役中ハ勿論休憩時間ト雖トモ許可ナクシテ濫リニ居席ヲ離レ或ハ指定工場外ニ至ルコトヲ禁スヘシ

十三　雜事ノ爲メ使役スル囚人ハ尤モ看守ト直接交渉スルヲ以テ看守ハ特ニ注意ヲ加ヘ濫リニ之ヲ信用セサル樣猛省セサルヘカラス且炊夫掃除夫理髮夫ノ如キハ囚人間適好ノ媒介者新事物ノ傳播者ナルカ故ニ看守ハ殊ニ慧眼ヲ以テ之ヲ注意警戒セサルヘカラス此ノ如キ囚人ニ對シテハ殊ニ其身体作業上ノ器具及函籠類ノ如キハ緻密ナル點檢ヲ爲スヘシ

十四　看守ハ在監人ニシテ逃走若クハ破監ヲ企謀スルモノア

ルヲ認メタル時ハ直ニ之ヲ看守長ニ申告シ一面當該人ノ戒護ヲ嚴重ニシ若シ密告者アル時ハ其密告者ノ何人ナルヤヲ他囚ニ知ラシメサル樣注意スルヲ要ス

十五　看守ハ兇暴ヲ逞フスル所ノ在監人ニ對シテハ被告人タルト囚人タルトヲ問ハス容赦ナク之ニ相當ノ戒具ヲ施シ强壓シテ以テ監獄ノ威嚴ニ屈服セシムルニ足ルノ手段ヲ盡スヲ要ス此場合ニ於テハ其時々上官ノ指揮ニ依ルヘキモノナリト雖モ若シ其遑ナキ時ハ臨機處分ノ上直ニ其事實ヲ上官ニ申告スヘシ

十六　看守ハ在監人ヨリ身体ニ對シ危險ナル攻擊ヲ受ケ若クハ破監逃走セントシテ危險ナル抗抵ヲ受ケタル場合ニ於テハ劍ヲ使用スル事ヲ得ヘシト雖モ此場合ハ最モ周密ノ注意ヲ要ス但必要ノ場合ハ之ヲ示シテ其効驗ノ顯著ナル事ヲ知ラシムル事アルヘシ（服裝及帶劍心得參照）

十七　在監人ニシテ若シ逃走ヲ遂行シタルモノアル場合ニ於テハ看守ハ最モ敏捷ニ且愼密ニ之ヲ補獲スルノ注意アルヲ要ス

十八　看守ハ火災ノ危險ニ對シ最モ迅速ニ且有効ニ之ヲ鎭壓シ一面在監人ノ身命ヲ安全ニ救援スルノ注意アルヲ要ス之ヲ末發ニ豫防スルノ注意トシテハ常ニ火氣ヲ用フル場所ハ殊ニ最モ其戒護ヲ愼密ナラシムヘキハ勿論凡ソ火氣運搬スル場合ニ於テハ必ラス規定ノ器具ヲ用フヘシ

第三條　看守ハ看守長以下上官ノ命ニシテ執行シ能ハサル場合若クハ之ヲ執行スルモ實務上監獄ノ不利益ト信スル時ハ典獄ノ指揮ヲ受クル事ヲ得

第四條　看守ハ上官ニ對シ虛言ノ申告ヲ爲シ又ハ執務上ノ過失

若クハ不秩序ナル所爲アル時ハ嚴重ナル懲罰ニ處セラルヘシ

第五條　看守ハ水火風震ノ際及囚徒不穩ノ虞アル場合ニ於テハ夜中ト雖モ出頭シ警備ニ從事スヘキモノトス

第六條　監獄ニ屬スル器物ニシテ自己ニ擔任セラレタルモノハ之ニ對シ責任ヲ有ス若シ自己ノ重過失ヲ以テ毀損シタル時ハ損害辨償ノ責ヲ免カレサルモノトス

第七條　看守ハ職務上ノ機密ヲ確守スルハ勿論殊ニ在監人處遇上ニ關スル事項ハ他ニ漏洩スヘカラス

第八條　看守ハ平素交際ヲ愼ミ節儉ヲ守リ苟モ宴樂ニ耽ルカ如キ事アルヘカラス又遊歩ノ際ト雖モ鄙猥ナル場所ニ立入ルヘカラス

第九條　看守ハ正當ノ事由ナクシテ周旋媒介ヲ爲シ若クハ他人ノ爲メニ訴訟事件等ニ關係スヘカラス

第十條　看守ハ官廳ノ許可ナクシテ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ミ若クハ濫リニ金品ノ貸借ヲ爲スヘカラス

第十一條　看守ハ在監人若クハ在監人タリシ者又ハ其親族故舊ヨリ金品ヲ受ケ又ハ貸借等ノ事アルヘカラス

第十二條　看守ノ受持場所ハ看守長之ヲ指定スルヲ以テ看守ハ其指定セラレタル場所ノ狀態ヲ精檢シ監房工場等ハ最モ清潔ニ之ヲ拂拭セシムルハ勿論備品ノ欠損ニ注意シ常ニ整然タル秩序ヲ保タシムルノ注意アルヲ要ス

第十三條　門衛ハ受持中最モ樞要ナル職務ニシテ監獄紀律ノ代表者タルヘキヲ以テ之レカ任務ニ當モノハ姿勢服裝等ヲ整然ナラシメ其來廳者ニ對シテハ親切叮嚀ヲ主トスルヲ要ス

第十四條　看守ノ職務ニ內外ノ別アル事ヲ忘却スヘカラス戒護ハ外部ニ屬スル半面ノ職務ニシテ敎養感化ハ內部ニ屬スル半

面ノ職務ナリ外部ノ職務ハ條文以テ之ヲ規定シ得ルモ内部ノ職務ハ條文若クハ命令以テ表顯スル能ハス故ニ看守ハ敏活健全ナル理解力ヲ以テ能ク之ヲ自得スル所アルヲ要ス

第十五條　看守タルモノハ先ツ其職務ノ大綱ヲ知ルヲ要ス之ヲ知ルニ於テハ自重ノ念自カラ之ニ伴ヒ教養感化ノ必要ナル所以亦從テ了得スルヲ得ヘシ

第二章　看守勤務心得

第十六條　勤務ヲ分チ内勤及外勤トス

内勤ハ文書計算ノ事務ニ外勤ハ専ラ戒護事務ニ從事スルモノトス

第十七條　外勤勤務ハ晝勤及晝夜勤トシ左ノ勤務ニ從事セシム

一　工場勤務

二　監房勤務
三　見張巡警勤務
四　門衛勤務
五　押送及外役勤務
六　衛生勤務
七　雜務

第十八條　内勤及晝勤ノ者ハ順次宿直セシム

第十九條　内勤者ノ昇降時限ハ一般官吏ノ例ニ依ル

但事務繁劇ノ場合ハ此限リニアラス

内勤看守ハ登廳時限ニ於テ看守長ノ點檢ヲ受クヘシ

第二十條　晝勤ノ者ハ起床時十分前ニ登廳シ還房後退廳セシム

但必要ノ場合ハ就寢時迄勤務セシムル事アルヘシ

第二十一條　晝夜勤ノ者ハ午前八時ヲ以テ交代セシム

但シ必要ノ場合ハ早出居殘ノ勤務ニ服セシムル事アルヘシ

病氣欠勤看護歸省忌引等ヲ爲シタルモノヽ最初出勤スル時間ハ晝勤者ノ例ニ依ル

第二十二條　晝勤ノ者ニハ四時間晝夜勤ノ者ニハ晝間四時間以內又夜間ハ二時間毎ニ各一時間ノ休憩ヲ與フ

晝勤ノ者ニシテ二週間以上勤續セシ者ニハ一日間ノ休養ヲ與フルコトアルヘシ

第二十三條　勤務配置ハ前日中ニ定ムルモノトス

第二十四條　出勤シタル時ハ直ニ勤怠簿ニ捺印シ點檢ヲ受ケ配置ノ勤務ニ服スヘシ

第二十五條　口頭又ハ掲示ヲ以テ上官ヨリ命令訓授シタル事項ハ其大要ヲ手帖ニ記載シ置クヘシ

第二十六條　命令訓授ノ大要ハ訓授簿ニ登載シ一定ノ場所ニ備置クヲ以テ前條ニ依リ命令訓授ニ與カラサリシモノハ之ヲ熟覽スヘシ

前項ノ命令訓授ハ知ラサルヲ以テ其責任ヲ免カルヽヲ得ス

第二十七條　在監人ノ遵守事項ヲ暗記シ之ヲ在監人ニ懇諭シ餅發ヲ罰スルヨリ寧ロ未發ニ豫防シテ犯則ノ行爲ナカラシムルヲ要ス

第二十八條　在監人ニ親族若クハ故舊等アル時ハ速カニ屆出ツヘシ

第二十九條　非番在宅ノ時ハ制服及其屬具等ヲ一定ノ場所ニ纏メ置キ又外出スル時ハ其行先ヲ家族ニ言置キ不時ノ出務ニ應スルノ注意アルヲ要ス

第三十條　非番ノ時ト雖モ三里以外ノ地ニ至リ又ハ他ニ宿泊セントスル時ハ願出認可ヲ受クヘシ

第三十一條　非番休暇ノ時ト雖トモ水火風震其他非常事變ニ際シテハ速カニ登廳シ上官ノ指揮ヲ受ケ警備ニ從事スヘシ但市街地外ノ火災ニシテ警備ヲ要セサル場合ハ此限リニアラス

第三十二條　非常時變ニ際シ臨時召集セラレタル時疾病等ニ依リ登廳シ能ハサル時ハ速カニ其旨届出ヘシ

第三十三條　勤務ニ服スル時ハ飲酒シ得サルハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ制服ヲ着シタルトキハ常ニ容儀ヲ正シ苟モ醉体ヲ露ハスカ如キ不体裁ナキヲ要ス

第三十四條　出勤中ハ一定ノ場所ニ非サレハ喫煙スヘカラサルハ勿論戒護勤務中ハ喫煙器具ヲ携帶スヘカラス

第三十五條　勤務中ハ勿論休憩時間ト雖モ相互ニ職務以外ノ談話ヲ爲シ又ハ許可ナクシテ監獄搆外ニ出ツヘカラス

第三十六條　戒護勤務中書籍新聞紙ハ勿論法律命令ノ如キモノト雖モ一切看讀スヘカラス但休憩所ニ於テ默讀スルハ此限リニアラス

第三十七條　戒護中如何ナル場合ヲ問ハス上官ノ許可ナクシテ受持場ヲ離レ又ハ勤務中腰ヲ掛ケ物ニ倚ル等ノ事アルヘカラス

第三十八條　戒護勤務中視察見聞シタル事項ハ細大ヲ問ハス輕重ヲ論セス総テ看守長ニ申告スヘシ

第三十九條　勤務中過誤アル事ヲ覺知シタル時ハ速カニ看守長ニ申告シ苟モ隱蔽スル等ノ事アルヘカラス

第四十條　戒護勤務中非常事變アル時ハ非常報知器ヲ押シ又ハ呼子笛ヲ以テ其急ヲ報スヘシ

但報知器ハ工場監房ノ符合ニ依ルヘキモノトス

第四十一條　戒護勤務中緊急事變アリテ受持場ヲ離レントスル

時ハ隣場受持看守者ニ戒護ヲ囑托スヘシ

第四十二條　勤務中上官タル事ヲ知リタル時ハ距離ノ遠近室ノ内外ヲ問ハス相當ノ敬禮ヲ爲スヘシ

但囚人押送中ハ步行ノ儘敬禮ヲ表スヘシ又在監人ヨリ禮ヲ受ケタル時ハ之ニ對シ一々擧手ノ禮ヲ爲サス只注目ニシテ答禮ノ意ヲ示スト同時ニ其擧動ニ注意スヘシ

第四十三條　總テ撿束上ニ於ケル失誤ハ混雜ヨリ生シ易キヲ以テ在監人檢束心得並ニ在監人動作號令心得ヲ常ニ服膺シ之レカ勵行ニ努ムヘシ

第四十四條　在監人ノ動作ハ左ノ場合ニ於テ特ニ周到ナル注意ヲ爲スヘシ

一　入房及出房ノ際

二　起床及就寢ノ際

三　就役及罷役ノ際

四　喫飯及行厠ノ際

五　着席及離席ノ際

六　着衣及脫衣ノ際

七　入浴及盥嗽ノ際

八　着履及脫履ノ際

九　配食及理髮ノ際

十　運動ノ際

十一　步行途中

十二　他人ニ接近スル際

十三　雨具ヲ使用スル際

第四十五條　受持區域外ト雖モ搆内步行ノ際ハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　門戸及錠前ノ鎖否
二　破損箇所ノ有無
三　逃走ノ用ニ供スヘキ物件ノ散乱並ニ逃走事蹟ノ有無
四　獨歩者ノ有無
五　火氣危險ノ有無
六　溝渠游塞及掃除ノ整否

第四十六條　戒護勤務ハ常ニ受持人員ヲ記憶シ監督者ノ巡視ニ際シテハ凡ソ三歩前ニ進ミ姿勢ヲ正シ報告スル旨ヲ告ケ更ニ一歩ヲ進ミ人員ノ報告ヲ爲シ丁リテ舊位ニ復シ敬禮ヲ爲スヘシ

第四十七條　常ニ在監人ノ飲食物及被服ノ汚染等ニ注意シ苟モ衛生上害アリト認メタルトキハ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第四十八條　総テ貸與品ハ鄭重ニ取扱ハシメ被服臥具ノ補綴修繕ハ成ルヘク本囚ヲシテ還房後若クハ休憩時間ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第四十九條　監房ノ扉ハ勿論其他総テノ出入口ハ在監人ヲシテ開閉セシムヘカラス

第五十條　變死者又ハ急發病者アル時ハ速ニ看守長又ハ看守部長醫師ニ申告スヘシ

第五十一條　鑰匙ヲ使用セントスル時ハ監督者ノ面前ニ至リ其旨ヲ告ケ鑰匙受渡表ノ受欄ニ捺印ノ上受取リ使用終リタル時ハ監督者ニ其旨ヲ告ケ返納スヘシ

第五十二條　左ノ場合ニ於テハ特ニ看守長又ハ看守部長ノ立會アルニ非サレハ其事務ニ着手スヘカラス

一　監房ノ開閉（但空房ノ時ハ此限リアラス）

二　監房ノ檢査
三　人員ノ點檢
四　通身檢査（但女囚ノ檢査ハ此限リニアラス）
五　差入品及購求品ノ檢査
六　工場及檢身場ノ搜檢
七　懲罰執行及解罰
八　戒具使用及解脫
九　作業器具ノ點檢
十　運動

第五十三條　監房ハ空房ノ時ト雖モ必ス閉鎖スヘシ

第五十四條　上官ノ指揮命令アルニアラサレハ女監構內ニ立入ルヘカラス

第五十五條　住所ハ監獄ヲ距ルコト五町以內ニ撰定スヘシ

第五十六條　看守ハ廳府縣長官又ハ之ト同格以上ノ官吏ニ對シテハ閣下ノ敬稱ヲ用ヒ其他ノ上官又ハ之ト同格ノ官吏ニ對シテハ殿ノ敬稱ヲ用ヒ官名又ハ職名ヲ稱呼スヘシ同班又ハ下班ニ對シテハ官名又ハ職名ヲ稱呼スヘシ

第五十七條　看守ハ在監人ニ對スル言語被告人ニ對シテハ其身分上ノ關係ニ依テ斟酌アルヘシト雖モ左ノ稱呼ヲ用ユヘキモノトス

刑事被告人ニ對シテハ（をまい）

前項以外ノ在監人ニ對シテハ（其方）

第五十八條　看守ハ授業手ト囚人ノ關係ハ常ニ嚴重ニ監察シ囚人ノ授業手ニ對シテ傲慢不遜ノ所爲ナカラシムルハ勿論又授業手ヲシテ囚人ヲ苛酷シ若クハ輕蔑罵詈スルカ如キコトナカラシムヘシ

第五十九條　授業手ト囚人間ノ喧爭ハ如何ナル場合ニ論ナク之ヲ嚴禁スヘシ若シ不都合ノ所爲アリト認メタル時ハ直ニ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第六十條　看守ハ常ニ其所用ノ帳簿及諸表ハ凡テ叮嚀ニ之ヲ取扱ヒ規定ニ從ヒ遲速ナク記入且捺印スヘシ

第三章　工場勤務心得

第六十一條　看守ハ囚人ニ對シテハ改過遷善ヲ勸誘シ作業ヲ奬勵シ專ラ勤勉ノ習慣ヲ得セシムル事ニ注意アルヲ要ス

第六十二條　工場受持看守ハ毎朝出勤シタル時ハ第二課ニ至リ工場囚人配置札ニ依リ其員數ヲ手帳ニ記載シ置キ監房受持看守ヨリ其人員ヲ受取リ工場ヘ引卒スヘシ

第六十三條　受持ノ囚人ハ其番號氏名年齡貫籍罪名刑名刑期犯數等ヲ手帖ニ錄シテ之ヲ記憶シ又其出入增減疾病事故及平素ノ動作如何ニ注意シ典獄其他ノ官吏不時尋問スル時ノ用ニ供スヘキモノトス

第六十四條　各自其受持ニ係ル囚人ノ行狀ニ注意シ其善惡動作ノ如何ヲ勘査シ在監人行狀視察心得ノ規定ニ依リ之ヲ報告スヘキモノトス

第六十五條　作業中囚人ノ違令犯行アルトキハ申告用箋ニ其事由ヲ詳記シ當直看守長ニ提出スヘシ
但緊急ナル事件ニ付テハ口頭ヲ以テ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第六十六條　囚人ノ役席ヲ定ムルハ罪質犯數及個人的關係ヲ省察シ成ヘク仝種ノ者ヲ並列セシメ混交セサル樣注意スヘシ

第六十七條　受持ニ屬スル作業事務ヲ整理シ素品製品及器具

ノ保存ニ注意スヘシ但作業ニ關スル事項ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ依ルモノトス

第六十八條　作業ハ嚴正ニ督勵シ科程ヲ了セシムルハ勿論仍ホ科程以上ニ上ラシムルノ注意アルヲ要ス

第六十九條　掃除夫其他等級工錢ノ者ニシテ降雨積雪等ノ爲メ其役業ニ從事スル能ハサル場合ハ取敢ス相當ノ作業ヲ科シ置キ其旨作業主任ニ報告スヘシ

第七十條　戒護中ハ特ニ視線ヲ場内一圓ニ張リ常ニ人員ヲ日算シ午飯及罷役時ニ於テ受持囚人ヲ一定ノ場所ニ整列セシメ人員ヲ點檢スヘシ

但要視察人ハ平素特ニ戒護ヲ嚴重ニスヘシ

第七十一條　出役中ハ必要欠ク可ラサル場合ノ外囚人ヲ工場外ニ出スコトヲ得サルハ勿論其必要アル場合ト雖モ成ルヘク之ヲ取纒メ仝時ニ處辨スルノ注意アルヘシ

第七十二條　勤務中一人ハ必ラス戒護ニ從事シ如何ナル場合ト雖モ二人同時ニ筆算ノ事務ニ從事スヘカラス

第七十三條　受持囚人ニ對シテハ官司業ト受負業タルトヲ問ハス素品製品及器具ヲ鄭重ニ取扱フヘキ習慣ヲ養成スルノ注意アルヲ要ス

第七十四條　役業監房又ハ糧食ノ變換ノ必要ヲ認メタル時ハ其事由ヲ當直看守長ニ申告スヘシ

第七十五條　製作品ニ就テハ注文者ノ誰タルヲ囚人ニ知ラシムヘカラス

第七十六條　轉工場ノ囚人アリタル時ハ其都度必ラス行狀錄日科表工場名刺其他當該囚ノ身上ニ關スル著シキ事項等ヲ漏ナク引繼ヲ爲スヘシ

第七十七條　工場看守所ニハ備品監督表ヲ掲クヘキモノトス

第七十八條　工場内通觀シ易キ場所ニ科程表工錢表及服役時間表ヲ掲クヘシ

第七十九條　受持囚人ノ糧食ハ其種別員數等ヲ食糧表ニ記入シ其都度炊場ニ通知スヘシ

第八十條　診察ノ情願ハ毎朝喫飯終了后ニ之ヲ受付診察用箋ニ記入シ看守長又ハ看守部長ニ提出スヘシ

但輕症ニシテ診察治療ヲ受クルノ必要ナキモノト認メタル時ハ懲諭シテ情願ヲ取消サシムルノ注意アルヘシ

第八十一條　日曜日ハ診察ノ受付ヲ休止スヘシ

但急病者ハ此限リニアラス

第八十二條　作業利器ヲ倉庫ヨリ搬出スル場合ニハ其箱ノ錠前及封印ニ注意シ異狀ノ有無ヲ確カムルヲ要ス

第八十三條　罷役后作業利器ハ直ニ取纒メ授業手ト共ニ看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ嚴密ノ點檢ヲ爲スヘシ

第八十四條　利器點檢簿ニハ常ニ品目員數ヲ記載シ作業主任看守長ノ認印ヲ受クヘシ但增減變更シタル時モ亦同シ

第八十五條　破損及不用ノ器具ハ一切工場ニ置クヘカラス若シ器具ニシテ紛失シタル場合ハ直ニ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第八十六條　利器點檢ノ際注意スヘキ事項左ノ如シ

一　利器ノ員數

二　破損ノ有無

三　刃ノ幾部ヲ切斷シタル形跡ノ有無

四　刃ノ部ニ覆ヒアルモノハ之ヲ取除クヘシ

第八十七條　受持看守ハ全囚還房後工場ノ内外ヲ巡視シ器具其

他物件ノ散乱及火ノ元ヲ査察シ異狀ノ有無ヲ當直看守長ニ報告スヘシ

第八十八條　行厠ノ際ハ必ス其近傍ニ在テ左ノ事項ニ注意スヘシ

但就役時間中ノ用便度數ハ一、二、十一、十二、ノ月ハ四回其他ノ月ハ五回トシ其時間表ハ別ニ定ム

一　行厠ノ人員及擧動

二　利器ヲ携ヘテ行厠セントスルモノアルヤ否

三　厠ニ於テ談話セントスルモノアルヤ否

四　厠以外ニ於テ糞尿ヲ漏スモノアルヤ否

五　漫リニ時間ヲ費消セントスルモノアルヤ否

六　厠内ニ潜伏セントスルモノアルヤ否

七　素製品ヲ厠内ニ投入セントスルモノアルヤ否

八　厠内ニ於テ樂書セントスルモノアルヤ否

九　厠内ニ於テ猥褻ノ行爲ヲナスモノアルヤ否

第八十九條　請負業ニ屬スル素品ノ持込ミハ適度ノ數量ニ限定シ製作品ハ速ニ出門セシムルノ注意アルヲ要ス

第九十條　日科表ハ毎日記入整理シテ期日迄ニ作業主任ニ提出シ又前月分ノ給與工錢額ヲ受持囚人ニ告知スヘシ

第九十一條　受持看守ハ就役中注意スヘキ事項左ノ如シ

一　就役人員

二　總テ號令ノ下ニ直ニ動作ヲ爲スヤ否

三　指定ノ役席ニ就キ居ルヤ否

四　作業ノ勉否

五　作業ノ適否

六　技能ノ進否

七　命令以外ノ物品ヲ製造シ居ルヤ否

八　製品ノ精粗

九　授業手トノ關係

十　物品ノ受授交換若クハ包藏セントスル狀況ノ有無

十一　逃走若クハ自殺ヲ計ラントスル狀況ノ有無

十二　火氣ヲ用フル作業ニ在テハ其取扱方法及危險ノ有無

十三　素品濫用ノ有無

十四　作業器具取扱ノ精粗

第九十二條　受持看守ハ囚人喫飯ノ際ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

一　配食公平ナルヤ否

二　本人ニ給スヘキ糧食ナルヤ否

三　食物ヲ交換及受授スルコトナキヤ否

四　飲食物ヲ包藏及拋棄スルコトナキヤ否

五　貸與ノ食器ヲ鄭重ニ取扱フヤ否

六　喫飯時間ノ遲速

七　咀嚼ノ適否

八　殘飯ノ多少

第九十三條　科程檢査ノ際注意スヘキ事項左ノ如シ

一　科程ノ良否

二　製品ノ精粗

三　科程數量ヲ欺カントスルモノアルヤ否

第九十四條　就役時間中入浴理髮セシムルモノハ當日休憩時間ヲ入浴ハ廿分理髮ハ十分ヲ短縮スヘシ但入浴當日ハ理髮セシメス

第九十五條　日曜日ニハ午飯后役服ノ儘教誨堂ニ引卒スヘシ

第九十六條　工場受持看守ハ製作品ニ所望アルモ直接囚人ニ對シ注文スヘカラス

第九十七條　各工場入口ノ錠ハ最終引上ノ受持看守ニ於テ之ヲ閉鎖スヘシ

第九十八條　工場ニ於ケル囚人ノ動作ハ總テ在監人檢束心得並ニ在監人動作號令心得ニ依リ取扱フヘシ

第九十九條　書籍ノ貸與及引換等ノ情願アル時ハ教務所ニ報告シ其他ノ情願ハ總テ當直看守長ニ報告用箋ニ記入シ報告スヘシ

第四章　監房勤務心得

第百條　監房勤務ハ受持區域内ヲ巡警視察スルモノトス

第百一條　囚人監ニ在テハ遵守事項ヲ守ラシムルハ勿論其他改過遷善セシムルコトニ注意スヘシ

第百二條　懲治場ニ在テハ前條ノ外德育ト体育トニ注意シ專ラ不良ノ萌芽ヲ矯正芟除スルヲ肝要トス

第百三條　監房ニ於ケル座席其他ノ動作ハ在監人檢束心得並ニ在監人動作號令心得ニ依リ最モ靜肅ナラシムルヲ要ス

第百四條　監房視察ノ方法ハ常ニ周密ナル注意ヲ以テ或ハ表面巡警シ或ハ徐歩偵察シテ其動靜ヲ窺ヒ殊ニ風雨ノ夜ニアリテハ一層其視察ヲ嚴密ニスヘシ

第百五條　各監房ハ起床時ニ至レハ障子雨戸ヲ開放シ臭氣ヲ除去スヘシ

第百六條　監房巡警ノ際視察注意スヘキ事項左ノ如シ

一　鎖鑰ノ鎖否

二　人員ト名札ト符合シ居ルヤ否

三　逃走又ハ自殺ヲ計ラントスル狀況ノ有無

四　房内ノ音聲
五　番號順ニ着座シ居ルヤ否
六　格子扉厠(便器)等異常ノ有無
七　敷物常置器具ノ整否
八　空氣ノ通塞及掃除ノ整否
九　通信器異狀ノ有無

第百七條　監房受持看守ハ起床時及還房後ニ於テ看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ在監人員ヲ點檢スヘシ
但還房點檢ヲ了リタルトキ其監房毎ニ鎖鑰ノ鎖否ヲモ點檢スヘシ

第百八條　監房ニ於テ臨時診察其他ノ情願ヲ受付タル片ハ交代ノ都度看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第百九條　在監人ニ給與スヘキ塵紙ハ監房工場各一人一日一枚トシ受持看守監房ニ臨ミ交付スヘシ但病者ニ在テハ監獄醫ノ意見ニ依リ增給スル事ヲ得

第百十條　女囚ニ給與スヘキ塵紙ハ特ニ一日三枚トシ尙ホ監獄醫又ハ女監取締ニ於テ必要ト認ムル片ハ適宜增給スル事ヲ得

第百十一條　就寢后ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ
一　蒲團ヲ被フリ又ハ枕ノ上ニ蒲團ヲ敷キ居ラサルヤ否
二　蒲團番號ヲ上部ニ顯ハスヤ否
三　合衾スル者ナキヤ否
四　眞ニ熟睡シ居ルヤ否
五　衣類ヲ脫シ又ハ手巾三尺帶等散乱セルモノナキヤ否

第百十二條　短日ノ片ニアリテハ出役還房ハ監房内暗淡明瞭ナラサルヲ以テ囚人ノ動作ニハ深ク注意スヘシ

第百十三條　監房ニ在テ作業ニ從事スルモノニ對シテハ一層視察ヲ嚴重ニシ作業器具及製作品等ハ罷役ノ際渾テ監房ノ外ニ引上クヘシ

第百十四條　監房ニ要視察人ハ特ニ視察ヲ嚴密ナラシムヘシ

第百十五條　懲罰執行中ノモノニ對シテハ特ニ戒護ヲ嚴重ニシ其感否ヲ視察スヘシ

第百十六條　出役還房ノ際ハ檢身場前ニ於テ人員ヲ點檢シ工場受持看守ト其受渡ヲ正確ナラシムヘシ

但出役順序ハ各工場別ニ出房セシムヘシ

第百十七條　工場勤務ニ關スル心得ハ監房勤務ニモ亦之ヲ準用ス

第五章　立番見張勤務心得

第百十八條　立番見張勤務ハ一定ノ視線區域内ヲ監視シ一面在監人ノ逃走ヲ豫防シ一面外部ヨリノ惡謀ヲ防遏シ不慮ノ事變ヲ警戒スルニアルモノトス

第百十九條　立番見張勤務中ハ嚴肅ナル態度ヲ保チ在監人獨歩者ノ有無及搏ノ内外ヨリ物品ノ投入出スルモノナキヤ否ニ注意スヘシ

第百二十條　立番見張勤務者ハ恣ニ指定ノ位置ヲ離ルヽ事ヲ得サルハ勿論同僚相會合シ又ハ書見及腰ヲ掛クル等ノ事アルヘカラス但雨雪ノ外雨覆ヲ冠リ立番室ニ入ルヲ禁ス

第百二十一條　在監人ノ逃走其他ノ事變アルヲ見聞シタル時ハ速ニ呼子笛ヲ以テ之ヲ報スルハ勿論其事變ノ狀況ニ依テハ直ニ現場ニ駈付ケ相當ノ鎮壓補獲方ニ從事スヘシ

第百二十二條　立番見張勤務中見聞ニ係ル事項ハ總テ看守長又

ハ看守部長ニ報告スルハ勿論其異常ナキトモ亦之ヲ報告スヘシ

第百二十三條　前條ノ報告ハ事柄ニ依リテハ看守長又ハ看守部長巡回ノ際若クハ交代ノ都度ニ於テ報告スルモノトス

第百二十四條　交代ノ際ハ互ニ制規ノ禮ヲ爲シ申繼ノ事項ハ遺漏ナク通告シ規定ノ線路ヲ通行スヘシ

第百二十五條　立番見張勤務ハ起床時ニ始マリ囚人全ク還房ノ後ニ於テ終ルモノトス

但特ニ命令アル立番見張所ハ此限リニアラス

第百二十六條　夜間ノ立番見張勤務者ハ交代後直ニ一定ノ時間規定ノ巡警線路ヲ巡回シ監督表ニ捺印シ了リテ指定ノ位置ニ復スヘシ

第百二十七條　構内外巡警心得ハ見張勤務心得ニモ亦之ヲ準用ス

第六章　構内外巡警心得

第百二十八條　巡警看守ハ規程線路ニ依リ受持區域ヲ巡警シ在監人ノ逃走犯則及火災等ノ危險ヲ豫防監察シ非常ノ警戒ヲ主トシ周密ノ注意アルヲ要ス

第百二十九條　巡警勤務ハ晝間及夜間トシ晝間ニ在テハ專ラ構外夜間ニ在テハ構内外トス

第百三十條　夜間ノ巡警ヲ監房工場ニ依リ其受持ヲ二區ニ分チ各其方面ヲ巡警スルモノトス

第百三十一條　巡警中恣ニ其受持區外ニ出テ若クハ休憩シ又ハ同僚ト不必要ナル談話ヲ爲シ又ハ線路ヲ欽略スヘカラス必ス豫定ノ時間遲速ナク巡了シ異常ノ有無ヲ看守長又ハ看守部長

ニ申告スヘシ

第百三十二條　夜間ノ巡回ハ其巡警線路ノ要所ニ監督箱ノ設ケアルヲ以テ巡回ニ先立テ看守長ヨリ巡回監督表ヲ受取リ巡警毎ニ之ニ押印シ巡了ノ上返納スヘシ

第百三十三條　巡警中ノ事故ニシテ若シ瞬時モ猶豫シ難キ時ハ自己職權ノ許ス限リハ直ニ相當ノ手配ヲ爲シ速ニ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘキモノトス

但夜間ノ巡警ハ特ニ潛行シテ監内ノ動靜ヲ注視スヘシ

第百三十四條　巡警途中ニ於テ監督者ニ遭遇シタル時ハ視察ノ事項ヲ申告スヘシ

第百三十五條　受持巡回區域ハ周到ニ視察スヘキハ勿論梯子其他逃走ノ媒介ニ便利ナル物品ノ有無ニ注意シ其取締方嚴重ナルヲ要ス

第百三十六條　獄舍及門戸墻壁道路其他ノ破損ニ注意シ若シ修補ヲ必要ト認ムル片ハ其旨看守長又ハ看守部長ニ申告スヘキモノトス

第百三十七條　巡警中在監人ノ逃走若クハ其他ノ事變ヲ發見シ應援ヲ要スル時ハ呼子笛ヲ以テ急報スヘキモノトス

第百三十八條　巡警中呼子笛ヲ聞知シタル時ハ速ニ捷路ヲ取リ直ニ看守所ニ歸來シ其旨看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ若シ接近シタル場所ニ於テ之ヲ聞キタル場合ハ直ニ現場ニ駈付ケ應援スヘキモノトス

第百三十九條　巡警中監房内ニ於テ談話スルモノアルカ又ハ異樣ノ響聲ヲ聞キタル片ハ受持ノ看守ニ注意ヲ促シ或ハ狀況ニ依リ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第百四十條　構外ニ於テハ最モ通行人ノ擧動ニ注意シ物品ノ投

入スルモノナキヤ否ヲ監察シ疑ハシキ片ハ直ニ訊問スヘシ

第百四十一條　巡警中ハ炊場浴場鍛冶工場煉瓦工場其他火氣ノ使用スル箇所ニ在テハ特ニ火ノ元ニ注意スヘシ

第七章　門衛勤務心得

第百四十二條　門衛看守ハ常ニ人民ニ接スルモノナレハ之ニ對シ懇切ヲ主トシ溫和ヲ專ラトシ苟モ傲慢ノ擧動非禮ノ言語ヲ發スヘカラス

第百四十三條　參廳人ニ對シテハ先ツ其要旨ヲ尋子監獄ニ所用アルモノヽ外ハ之ヲ拒絶スヘシ其所用アルモノニ對シテハ門鑑札ヲ交付シ受付其他所用アル各係ノ詰所ヲ指示スヘシ

第百四十四條　表門(大小)ハ常ニ之ヲ閉鎖スヘシ但小門ハ晝間(自晝勤看守ノ出勤時至仝退廳時)ニ限リ鎖鑰ヲ施サス

在監人ヲ表門內玄關前ニ出シタル片ハ特ニ閉門シテ警戒ヲ爲スヘシ

第百四十五條　平日ニ在リテハ總テ小門ヨリ出入セシムヘシ但特ニ命令アリタル場合若クハ小門ヨリ出入シ難キモノハ此限リニアラス

第百四十六條　大門小門ハ同時ニ之ヲ開扉スルヲ得ス必ラス一方ヲ閉鎖シタル后一方ヲ開扉スヘシ

第百四十七條　物品ヲ持込マントスル者アル片ハ其事由ヲ糺シ正當ノ理由アルニアラサレハ之ヲ許スヘカラス

第百四十八條　物品ヲ携帶シ出門セントスルモノアル片ハ出門證ヲ檢査シ其出門證ニハ主任看守長ノ認印アルニ非サレハ出門ヲ許スヘカラス

但本人ノ所持品ト認メ得ヘキモノハ此限リアラス

第百四十九條　車馬及積載シタル物品ヲ出門セントスル片ハ時宜ニ依リ其内部ヲモ檢査スヘシ

第百五十條　出門証ハ一日分ヲ取纒メ晝間最終勤務ノ者ヨリ當直看守長ニ提出スヘシ

第百五十一條　出入門セントスルモノニシテ疑ハシキモノト認メタル塲合ハ出入ヲ止メ置キ直ニ看守長ニ申告シテ指揮ヲ受クヘシ

第百五十二條　總テ釋放者ニハ出門證ヲ携帶セシメ尙之ニ看守ヲ付シ表門迄押送スルト雖モ門衛看守ハ其出門證ヲ受取本人ト照合シタル上ニアラサレハ出門セシムヘカラス

但外役監視人及他管押送等ノ爲メ出門スル塲合ハ戒護者ヨリ其員數ノ報告ヲ受ケ其員數ニ相違ナキヤ否ヤヲ檢スヘシ

第百五十三條　放免者迎トシテ參廳スルモノアル片ハ一應訊問ノ上必要ヲ認メタルモノヽ外ハ入門ヲ許スヘカラス但多數團体ヲ組シテ參廳シタル者アル片ハ報知器ヲ以テ看守長ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

第百五十四條　門扉ノ鎖鑰門鑑札ノ員數及參廳者ノ人員等ハ交代ノ際正確ニ引繼クヘシ

第百五十五條　非常變災ノ際ニアリテハ職員其他當廳ニ關係アル官吏ヲ除ク外ハ看守長ノ指揮アルニ非サレハ入門セシムヘカラス

第百五十六條　門衛中ハ同僚ハ勿論其他ノモノト雖モ猥ニ相會合雜談シ又ハ如何ナル塲合ト雖モ交代者ナクシテ詰所ヲ離ルヽヿヲ得ス

第百五十七條　表門内外ニ事變アル片ハ報知器ヲ以テ急報スヘシ

第百五十八條　門衛所ニハ執務要報ヲ備置キ出入ニ關スル重ナル事故ヲ記入シ午后十時後ニ出入スルモノハ何人ニ限ラス其人名及理由出入ノ時間等ヲ記載シ翌朝當直看守長ニ提出スヘシ

第八章　拘置監勤務心得

第百五十九條　拘置監擔當看守部長ハ拘置監ニ關スル監督事務ニ看守ノ内一人ハ書信其他ノ事務ニ他ハ戒護事務ニ押丁ハ理髮及差入辨當ノ配與其他ノ雜務ニ從事スヘキモノトス

第百六十條　拘置監勤務ノ看守部長ハ日勤トシ看守ハ晝夜勤務トシテ毎朝八時ヲ以テ交代セシム

第百六十一條　刑事被告人ノ處遇ハ無罪純白ヲ以テ處遇スヘキモノナリト雖モ常ニ紀律ニ背反セシメサルノ注意アルヲ要ス

第百六十二條　新入者ノ交付ヲ受ケタル片ハ直ニ入浴又ハ盆浴セシメ了リテ停留監ニ收容スヘシ

第百六十三條　新入ノ際着用シ來リタル衣類ハ消毒シタル後ニ非サレハ着用セシメス但身分上ノ關係ニ依リ必要ナキモノハ此限ニアラス

第百六十四條　停留期限ハ入監ノ翌日ヨリ五日間トシ期限經過シタルモノハ第一、二、四監ヘ轉房セシムヘシ

第百六十五條　刑事被告人ニ對シテハ專ラ遵守事項ヲ確守セシメ以テ罪證ノ煙滅ヲ豫防スル事ニ注意スヘシ

第百六十六條　拘置監ニ於テハ罪質犯數年齡等ニ依リ監房ヲ別異スト雖トモ其共犯者ニ對シテハ如何ナル場合ト雖トモ同一監房ニ入レ又ハ同一場所ニ出スヘカラス

第百六十七條　監房別異ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ第六監ニ收

容シ戒護ヲ嚴重ニスヘシ

第百六十八條　控訴上告抗告故障等ノ申立書認方出願シタル時ハ最モ迅速ニ之ヲ取扱ヒ苟モ訴權ヲシテ喪失スルニ至ラシメサル樣注意スヘシ

第百六十九條　事務看守ハ毎朝各監房ニ就キ書信諸願診察等ノ有無ヲ調査スヘシ

第百七十條　書信及書類ハ其必要アルモノニ對シテハ其時々認メサセ書信簿又ハ書類發送簿ニ記入シ第二課長ニ提出スヘシ但診察願ハ診察用紙ニ記入シ看守部長ニ差出スヘシ

第百七十一條　書信室ニ於テハ戒護ヲ愼密ニシ筆墨ノ竊取又ハ被告人相互ノ通謀ナキ樣注意スヘシ

第百七十二條　監房ハ整然トシテ器具排列セシメ濫リニ所持品ヲ房內ニ紛亂セシメサル樣注意スヘシ

第百七十三條　差入辨當ヲ喫スルモノト官給ノ食ヲ喫スルモノトハ各其座席ヲ異ニシ他人ニ分與スルノ弊ナカラシムヘシ

第百七十四條　運動檢房ハ毎朝交代ノ際ニ於テ爲スヘシ但其方法ハ運動及檢房心得ニ依ルヘシ

第百七十五條　運動入浴監房ノ開閉ハ看守部長ノ立會アルニアラサレハ着手スル事ヲ得ス

第百七十六條　刑事被告人ノ行狀ハ常ニ在監人行狀視察心得ニ依リ視察シ置キ行刑ノモノハ當日他監押送ノモノハ其前日當直看守長ニ提出スヘシ

第百七十七條　刑事被告人ニシテ看守ノ懲諭ニ應セス紀律ヲ紊スモノアル時ハ直チニ當直看守部長又看守長ニ申告スヘシ

第百七十八條　刑事被告人又ハ囚人ニ對シ裁判所ヨリ呼出ノ通知アリタル時ハ事務看守ハ裁判所召喚簿ニ記入シ置キ呼出シ

ノ當日其帳簿ヲ看守部長ヲ經テ看守長ニ提出スヘシ

第百七十九條　刑事被告人ニ下附スヘキ物品アル時ハ下附簿ニ記入シ本人ヘ交付ノ上拇印セシムヘシ

第百八十條　監房前ノ小札ニハ其共犯者ノ符號ヲ記シ一見共犯者アルノ意ヲ明ラカニスルヲ要ス

第百八十一條　刑事被告人ニシテ作業ヲ爲サント請フモノアル片ハ願書ヲ提出セシムヘシ

第百八十二條　死刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアル片ハ他ノ者ト別異シ戒護ヲ嚴密ナラシメ逃走及自殺ノ虞ナキ樣特ニ注意スヘシ

第百八十三條　無罪免訴保釋責付等ニ依リ出監スルモノアル片ハ衣類書籍等ヲ檢査シ仝房者ノ所持品ト相交換スルカ如キ事ナキ樣注意ヲ要ス

第百八十四條　拘置監ニハ執務要報ヲ備置キ生シタル事項ハ漏ナク記載シ翌朝當直看守長ニ提出スヘシ

第九章　炊場勤務心得

第百八十五條　炊場看守ハ炊夫ヲ戒護シ及炊烹ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第百八十六條　炊場受持看守ハ三人トシ順番ヲ以テ一人ツヽ宿直スヘシ但宿直ニ當ルモノハ午前八時出勤トス

第百八十七條　炊夫ノ役務ヲ嚴正精密ニ視察シ窃食ノ弊ナカラシムル樣注意スヘシ

第百八十八條　炊場看守ハ極メテ周密ナル經濟思想ヲ以テ殘飯ノ處分食菜ノ調理配與糧食ノ保存等ニ注意スヘシ

第百八十九條　炊場看守ハ第三課主任看守長ヨリ毎日米麥食菜ノ用品ヲ受取リ置キ食糧報告ニ依リ現在囚ニ相當スル飯ヲ焚キ食菜ハ献立表ニ依リ之ヲ調理スルモノトス

第百九十條　在監人ニ給與スル食糧ハ第三課ニ於テ十日毎ニ其献立表ヲ作リ醫師ノ意見ヲ聞キ典獄ノ檢閲ヲ經テ炊場看守ニ交付スヘキモノトス

但食糧献立ニ付意見アル片ハ前以テ主任看守長ヘ申出ツルヿヲ得

第百九十一條　炊場看守ハ日々食糧ノ支拂等ヲ明確ナラシメ食糧日表ヲ調製シ第三課主任看守長ニ提出スヘシ

第百九十二條　食糧給與ノ目的ハ在監人ノ健康ヲ保持セシムルニ在リ故ニ炊場看守ハ献立表ニ依リ食菜ヲ調理スルニ當リ其方法ニ注意スヘシ

第百九十三條　食物ノ調理終リタル片ハ其數量箇數等ヲ調査シ喫食時間ニ先タチ各工場監房ニ配與セシムルモノトス

但炊夫ヲシテ女監構内ニ入ラシム可ラス

第百九十四條　炊場備付ノ諸器具ハ鄭重ニ取扱ハシムルハ勿論其數量ヲ塗札ニ記載シ置キ時々現品ト照合檢査シ若シ破損或ハ不足ヲ生シタル片ハ其理由ヲ取糺シ看守長ニ申告スヘシ

第百九十五條　食糧品ヲ第三課ヨリ受取タル片ハ炊場附屬ノ物置ニ納メ鎖鑰ヲ嚴重ニ施シ鍵ハ看守之ヲ保管シ其出入毎ニ自ラ開閉ヲナシ炊夫ヲシテ濫リニ出入セシムヘカラス

第百九十六條　炊場内ハ勿論食器釜其他炊用器具ハ清潔ニ洗滌シ且ツ乾燥セシメ衛生上危害ヲ釀成セサル樣注意スヘシ

第百九十七條　在監人ニ給與スル食糧ハ典獄各課長醫務所長ノ檢査ニ供シタル上配食スヘキモノトス

第百九十八條　瀘鑵其他ノ釜ニ用ユル燃料ハ浪費ニ渉ラザル樣深ク注意ヲ加フヘシ

第百九十九條　食物調理ノ際ハ勿論炊夫ハ常ニ其身体及被服ヲ清潔ナラシムヘキモノトス

第二百條　炊場看守ハ火夫ト炊夫トノ關係ヲ監督シ又炊夫ヲシテ濫リニ瀘鑵ニ手ヲ觸レシメサル樣注意スヘシ

第二百一條　殘飯ハ再ヒ之ヲ利用シ再ヒ利用シ難キモノハ乾燥シテ乾飯トシ乾飯トナシ能ハサルモノ及流シ尻リニ流出スル殘物ハ之ヲ養豚ノ飼料ニ充ツヘキモノトス

第二百二條　竈及下水等ニ注意シ若シ破損アル場合ニ於テハ速ニ修繕ノ手續ヲナスヘシ

第二百三條　早起炊夫ノ戒護ハ一層嚴密ナラシムルハ勿論炊夫ハ成ル可ク他ノ囚人ト接近セシメサル樣注意シ苟モ食物ヲ受授スルカ如キ事ナカラシムヘシ

第二百四條　炊夫ヲ還房セシムル際ハ器具ヲ整然タラシムルハ勿論瀘鑵其他ニ於テ火氣ヲ使用セシ場所ハ愼密ノ注意ヲ加ヒ不虞ノ災害ナキ樣警戒スヘシ

第十章　診察立會及病監勤務心得

第二百五條　診察立會ノ際ハ極メテ靜肅ナラシメ受診者ヲシテ專ラ醫師ノ指揮ニ從ハシメ決シテ不遜ノ擧動ナキ樣注意ヲ要ス

第二百六條　病者ヲ訓戒スルニハ努メテ溫言ヲ用ヒ病勢ヲシテ激動セシムルカ如キ事ナキヲ要ス

第二百七條　診察ノ際醫師ノ指揮ニ從ハス看守ノ訓戒ニ應セサルモノアル時ハ直ニ看守長ニ申告スヘシ

第二百八條　診定ハ一ニ醫師ノ任ナリト雖トモ尚診察ノ際立會看守ニ於テモ行狀視察上左ノ事項ニ付キ注意スヘシ

一　醫師ニ接スル狀況

二　受診察者ノ擧動及輕症ヲ過大ニ申立ツルノ狀況ナキヤ否

三　虛病ニアラサルヤ否

四　科程ノ寬恕ヲ求メンカ爲メナルヤ否

五　就役ニ堪ユヘキモノナルヤ否

第二百九條　病監ニハ患者ノ人名簿ヲ備ヘ其出入及病症ノ輕重等ヲ記載シ置クモノトス

第二百十條　室內ノ淸潔空氣ノ流通及衣類臥具ノ洗濯交換等總テ醫師ノ指示ニ依リ患者ノ保養ニ注意スヘキモノトス

第二百十一條　常ニ患者ノ動靜ニ注目シ戒護ヲ怠ルヘカラス又看病夫ノ行狀ハ嚴密ニ之ヲ視察シ病者ニ接スル狀態ハ依佶ノ所爲ナク能ク病者ヲ看病セシムル樣注意スヘシ

第二百十二條　病監ニ移スヘキ患者アル時ハ適宜身体衣服ヲ檢査シ醫師ノ示定セル監房ニ移スヘキモノトス

第二百十三條　患者ニシテ藥湯及運動ヲ要スルモノハ醫師ノ指揮ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第二百十四條　疥癬患者ノ使用シタル物品又ハ衣類臥具ハ健康者ノ衣類臥具其他ノ物品ト混同セサル樣注意スヘシ

第二百十五條　重傷ヲ受ケタルモノ又ハ危篤ノ病者ニ就テハ特ニ注意シ其狀況ヲ看守長醫師ニ申告スヘシ

第二百十六條　患者中俄カニ變症ノ兆候ヲ呈シタル者又ハ危篤ニ迫リタル者アル時ハ速ニ看守長又ハ醫師ニ報告スヘシ

第二百十七條　患者中變死者アル時ハ迅速ニ看守長又ハ醫師ニ報告シ檢視ノ終ラサル間何等ノ事情アルモ其位置ヲ移動スヘ

第二百十八條　患者死亡シタル時ハ直ニ看守長又ハ醫師ニ報告シ臨場ヲ待チ指揮ニ依リ遺骸ハ死室ニ移スヘキモノトス

第二百十九條　病死者等ノ用ヒタル臥具枕等ハ醫師ノ意見ニ從ヒ洗濯シ又ハ日光ニ晒シ若クハ消毒薫蒸等ヲ爲シ或ハ毀棄燒却ノ手續ヲ爲スヘシ

但刑事被告人ナル片ハ領置主任ニ通知スヘシ

第二百二十條　病監患者ニ接スルニハ親切温和ヲ旨トシ之ヲ鼓舞シテ其神經ヲ開發セシムル樣注意スヘシ

第二百二十一條　死体ヲ取扱フニハ努メテ鄭重ナラシメ決シテ粗暴苛酷ニ渉ルカ如キ所爲ナカラシムルヲ要ス

第二百二十二條　死者ニ對シ棺前敎誨ノ通知ヲ受ケタル時ハ其時間迄ニ看病夫ヲシテ遺骸ヲ敎誨堂ニ移サシムヘシ

第二百二十三條　病監受持看守モ亦監房勤務心得ニ於ケル監房視察事項ヲ準用スヘシ

第二百二十四條　給藥ハ毎回押丁ヲシテ配付セシメ看守監督ノ許ニ服用セシムヘシ

第十一章　敎誨立會心得

第二百二十五條　總囚敎誨ニ際シ囚人ヲ敎誨堂ニ引卒シタル時ハ其入口ニ於テ履物ヲ脫シ靜肅ニ敎誨堂ニ入ラシメ容姿正シク着座セシムヘシ

第二百二十六條　被敎誨者ノ席次ハ各工場別トシ有賞者ハ前列ニ着座セシムヘシ

第二百二十七條　敎誨立會中ハ最モ姿勢ヲ正シ靜肅且秩序ヲ保持シ其敎誨中ニ在テハ入口ヲ開閉シ或ハ步行シ又ハ交代シ若

クハ交談スル等ノコトアルヘカラス

第二百二十八條　教誨堂ニ在テハ被教誨者全体ニ注目シ聽聞ニ誠心ナルヤ否ヲ精察スヘシ

第二百二十九條　教誨中ハ最モ視察ヲ嚴ニシ被教誨者ヲシテ相互ニ交談シ若クハ通謀セシメサル樣注意スヘシ

第二百三十條　被教誨者ニシテ睡眠若クハ放心スルコトナク教誨聽聞スルノ外他意ナキ樣注意奬勵スヘシ

第二百三十一條　教誨立會ノ際注意スヘキ事項左ノ如シ

一　教誨聽聞ノ狀況

二　教誨ノ主旨ヲ咀嚼シ得ルヤ否

三　教誨感動ノ狀況

第二百三十二條　教誨了リタル時ハ出口ニ近キ所ヨリ工場別ニ起立出堂セシメ靜肅ニ檢身場ヘ引卒スヘシ

第二百三十三條　工場監房ノ教誨時ニ在テハ囚人ヲシテ教誨師ヲ尊敬セシメ成ルヘク教誨上ノ便宜ヲ與フルコトニ注意スヘシ

第二百三十四條　特赦假出獄及棺前教誨等ノ爲メ囚人ヲ教誨堂ニ參集セシムルニハ其工場又ハ監房受持看守ニ於テ之ヲ引卒シ其式場ニ立會參列囚人ノ感否ヲ視察スヘシ

第二百三十五條　總テ教誨立會ノ際視察シタル著シキ事項ハ手帳ニ其大要ヲ記載シ置キ行狀報告ノ材料ニ供スルノ注意アルヲ要ス

第二百三十六條　教誨ノ種類ハ別ニ定ムル所ノ教誨規程ニ據ルモノトス

第二百三十七條　教誨堂ニ於テ用ユル號令ハ在監人動作號令心得ニ據ル但分類及個人教誨ノ際ハ其前後ニ於テ「禮」「元ヘ」ノ

號令ヲ用フヘシ

第十二章　交代看守及交代時ノ心得

第二百三十八條　交代ハ甲者其勤務ヲ終リ乙者之ニ代ルヲ云フ

第二百三十九條　休憩中交代時間ニ至レハ一定ノ場所ニ整列シ看守長若クハ看守部長ノ點檢ヲ受ケ交代勤務ニ就クヘシ

第二百四十條　交代時限ハ精確ニ遵守シ苟モ在監人ノ聞得ヘキ場所ニ於テ其遲怠ヲ爭フカ如キ事アルヘカラス

第二百四十一條　交代ノ際ハ互ニ禮式ヲ爲シ見聞其他ノ申繼事項ハ漏ナク交代者ニ告知シ責任ノ歸スル所ヲ明確ナラシムヘシ

但交代ヲ急カンカ爲メ自己戒護ノ位置ヲ離ルヽ等ノ事ナキヲ要ス

第二百四十二條　交代ノ際私意ヲ挾ミ引繼キ又ハ言繼クヘキ事ヲ故ラニ隱蔽スルカ如キコアルヘカラス

第二百四十三條　門衛ニ交代スルモノハ門衛心得ヲ服膺シ自己勤務中ノ出門及參廳者ノ人員等ヲ漏ナク門衛看守ニ告知スヘシ

第二百四十四條　門鑑札ハ交代ノ際其員數ヲ改メ受授ヲ爲スヘシ

第二百四十五條　交代シテ休憩所ニ歸リタルトキハ第二課ニ至リ當直看守長若クハ看守部長ニ異狀ノ有無ヲ申告シ仝時ニ勤務表ニ捺印スヘシ

第二百四十六條　勤務中監督者ノ巡視ヲ受ケタルトキハ其監督者ノ姓ヲ刻シタル印ヲ監督巡視表ニ休憩ノ都度押印スヘシ

第二百四十七條　交代ハ就役時ヨリ始マリ罷役時十分前ニ終ル

モノトス

第二百四十八條　交代者出役及還房ノ際ハ囚人ヲ押送シ又朝夕喫飯時ニハ其工場勤務ノ補佐ヲ爲スヘシ

第十三章　押送及外役勤務心得

第二百四十九條　押送スヘキ在監人アルトキハ其者ノ住所氏名及刑名刑期又ハ被告事件等ヲ之ヲ手帖ニ記載シ戒護ノ參考トナスヘシ

但之ニ代フヘキ書類簿冊アル者ハ本手續ヲ省略スルヿヲ得

第二百五十條　他監押送ノ際其貨物ハ主任者ノ面前ニ於テ其目錄ニ對照調査ノ上受取ルヘシ

第二百五十一條　押送スヘキ在監人ハ看守長又ハ看守部長ノ立會ニテ其人員ヲ點檢スヘシ

第二百五十二條　外役ニ於テ用ユヘキ諸器具ハ其品目員數ヲ記帳シ出入ノ都度之ヲ點檢シ其整否ニ注意スヘシ

但外役先ニ於テハ正午並ニ罷役ノ際之ヲ點檢スヘシ

第二百五十三條　戒具ヲ施シテ押送スヘキ在監人ナルトキハ先ツ其戒具ノ良否及適否ヲ檢査スヘシ但戒具使用ノ可否ハ看守長又ハ看守部長ノ指揮ニ依ルヘシ

第二百五十四條　押送前ニ在監人ヲシテ用便ヲ爲サシメ止ムヲ得サル場合ノ外途上ニ在リテ之ヲ爲サシムヘカラス

第二百五十五條　囚人懲治人及刑事被告人又ハ其共犯者ヲ全時ニ押送スル時ハ常ニ四五歩ノ距離ヲ保チ又男ト女トハ格別ニ之ヲ爲シ決シテ接近セシムヘカラス

第二百五十六條　押送途中ハ人員ノ多少ニ依リ一列若シハ二列トシ通路ヲ右又ハ左ノ一方ニ採リ努メテ路人ノ妨害トナラサ

ル樣注意スヘシ

第二百五十七條　押送途中又ハ外役先ニアリテハ特ニ四方ニ注意シ路人ト談話シ又ハ形容其他ノ方法ヲ以テ相互ニ意思ヲ通セシムル等ノ事アルヘカラス

第二百五十八條　押送途中ニ於ケル戒護者(一名)ノ位置ハ其最后ノ被押送者トノ距離ヲ右側又ハ左側ニ二三歩ヲ保チ一二歩ノ后ニ付添フヘシ其他ノ戒護者ハ本心得ノ趣旨ニ則リ便宜ノ位置ニ付添フヘシ

第二百五十九條　押送途中ハ勿論外役先ニ在テ物品等ヲ拾取セシムヘカラス

第二百六十條　押送途中又ハ外役先ニ在テハ必ラス笠ヲ冠ラシムヘシ

第二百六十一條　押送途中又ハ外役先ニ在テハ在監人ノ行狀良否ヲ視察シ他監押送ノ者ナル片ハ受領者ニ其他ハ歸監ノ后速ニ其旨看守長ニ申告スヘシ

第二百六十二條　押送途中又ハ外役先ニ在リテ戒具ヲ施シアル者ニ對シテハ發病等萬止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ解ク事ヲ得ス其喫飯又ハ用便セシムル時ハ左ノ例ニ依ルヘシ但手錠ヲ解カサルモ喫飯用便ニ差支ナキ場合ハ此限リニアラス

一　喫飯ノ時ハ繩ヲ施シタル者ハ手締ノミヲ解キ手錠ヲ施シタルモノハ其右手ノミヲ解クヘシ

二　用便ノ時ハ左手ノミヲ解クヘシ

第二百六十三條　外役囚ニ施シタル連鎖ハ一日二回以上之ヲ檢査シ其必要ト認ムル時ハ臨時點檢ヲ爲シ務メテ戒護ヲ嚴重ニスヘシ

第二百六十四條　外役先ニ於テノ用便時限ハ監獄内ト仝樣タルヘシ但就役前ト罷役後ニ於テ用便セシムル事ヲ得

第二百六十五條　押送途中又ハ外役先ニ在テ發病シタルモノ有ル時ハ病狀ノ輕重ニ依リ直ニ歸監又ハ最寄醫師ヲシテ診察治療セシムル等臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

但歸監又ハ到着ノ上速ニ其顚末ヲ上官ニ申告スヘシ

第二百六十六條　押送途中又ハ外役中逃走シ若クハ外人ノ爲メ掠奪セラレタル時ハ便宜監獄ニ急報スルハ勿論場合ニ依リ警察官等ニ應援ヲ請フヘシ

但看守者ノ都合ニ依リ殘囚ノ戒護ニ支障ナシト認ムル時ハ一面追跡捕獲ノ手續ヲ爲スヘシ

第二百六十七條　他官衙ニ交付スル時ハ其受取人ノ面前ニ於テ戒具ヲ解キ之ヲ交付シ受領ノ證ヲ受取リ歸監後主任看守長ニ差出スヘシ

第二百六十八條　裁判所ノ召喚ニ依リ在監人ヲ押送シタル時ハ留置場ニ入レ閉鎖ノ上嚴密取締ヲ爲スヘシ

第二百六十九條　裁判所ノ召喚ニ應シタル在監人ノ内共犯者ハ各其房ヲ異ニスルハ勿論形容其他隱微ノ方法ニテ相互ニ意思ヲ通セシメサル樣警戒スヘシ

第二百七十條　戒具ヲ施シタル者ヲ法廷ニ入ルヽ時ハ其内部ノ入口ニ於テ之ヲ解キ退廷ノ時ハ其内部出口ニ於テ再ヒ之ヲ施スヘシ但入廷中ハ常ニ其傍ニ在テ戒護スヘシ

第二百七十一條　在監人留置場ニ在テハ監房ト同シク秩序整然タラシメ濫リニ指定ノ座席ヲ離レシムヘカラス

第二百七十二條　裁判所留置場ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

一　留置場ニ入ルヽ前ニ於テ監房ヲ檢査スルノ外尙通身及人

員ノ檢査ヲ爲スヘシ

二　指定セラレタル位置ニ居リ戒護ヲナスハ勿論時々巡警スヘシ

三　留置場ヲ出房セシムル場合ニハ先一人ヲ出シ之レニ戒具ヲ施シ更ラニ他ノ者ヲ出シ戒具ヲ施シ順次出房セシムルノ注意ヲ要ス

四　留置場構内ニハ人民ヲシテ出入セシムヘカラス

五　留置場内外ハ常ニ清潔ヲ保持スヘシ

六　歸監セントスル時ハ常置器具及備品ヲ整理點檢シ錠前ノ設備アル箇所ハ遺漏ナク施錠シ又火ヲ使用シタル時ハ再燃ノ虞ナキ樣消シ置クヘシ

七　馬車押送ノ際ハ看守先ツ捕繩ヲ携有背面シテ下車シ然ル後被告人ヲ順次下車セシムヘシ

第二百七十三條　裁判所ヨリ在監人ヲ歸監セシメントスル時ハ現場ニ於テ通身ノ檢査ヲ爲シ又外役先ヨリ歸監セシメントスル時ハ其人員ノ檢査ヲ爲シ尙戒具及其鎖否ヲモ點檢スヘシ

第二百七十四條　裁判所ニ於テ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノハ他ノ刑事被告人ト別異シテ歸監スヘシ

第二百七十五條　外役及裁判所等ヨリ歸監シタル者ハ人員檢査ノ上受持看守ニ引渡スヘシ

第二百七十六條　裁判所留置場ニハ執務報告簿ヲ備ヘ置キ判決及取調事項ヲ詳記シ毎日看守長ニ提出スヘシ

第十四章　監房及通身檢査心得

第二百七十七條　監房檢査ハ毎日一回以上之ヲ行ヒ應禁物ノ發見及破獄逃走其他ノ陰謀ヲ未發ニ防止スルヲ目的トス

第二百七十八條　監房檢査ノ要領ハ概略左ノ如シ

一　扉門鎖鑰鐵具類及床下

二　格子柱壁板戸窓障子天井板床板水流便所其他各所ノ割目合目節穴等

三　敷物臥具常置器具及携有品

四　破損箇所ノ有無

便所壺内ハ糞汁汲取掃除ノ際ニ於テ檢査スヘシ

右ノ外掃除ノ整否樂書ノ有無監房前掛札ニ注意スヘシ

第二百七十九條　監房檢査ノ方法ハ概略左ノ如シ

一　天井壁板柱床等ハ先ツ異狀ノ有無ヲ注視シタル后突キ又ハ打チ試ムル等精密ナルヘシ

二　異樣ノ張紙等アレハ之ヲ剝キ取リ其跡

三　割目合目節穴等ハ其塡充物ヲ除キ其跡

四　竹折木片ノ類及之ヲ柱等ニ挿入シアル片ハ之ヲ除キ其跡

五　敷物ハ一々之ヲ上ケ其表裏其縁及其中間

六　臥具衣類ハ番號札ノ有無及其縫目袖口襟袂裾ニ至ル迄之ヲ揉ミ或ハ曲ケ或ハ押ヘ或ハ振フ等精査スヘシ但破損汚染等ヲ認メタル片ハ速ニ修繕又ハ引換ノ手續ヲ爲スヘシ

七　書類書籍等ハ一々之ヲ開キ交換又ハ樂書ノ有無及表紙ニ不正ノ所爲ナキヤ等ヲ檢査スヘシ

第二百八十條　監房檢査ヲ終リタル片ハ總テ原形ニ復シ物件散乱等ノ事アルヘカラス

第二百八十一條　闇室ノ檢査ハ必要ヲ認メタル場合ノ外其罰期中ハ之ヲ施行セス

第二百八十二條　在房者ノ監房檢査ハ成ルヘク入浴運動等出房シタル時機ヲ以テ行フヘシト雖モ止ムヲ得サル場合ニ於テハ

左ノ方法ニ依ルヘシ

一　逃走ノ念アルモノニ對シテハ特ニ注意ヲ要ス

二　在監者ヲ出房セシメ監房ヲ背面ニ直立セシメ置キ檢房ヲ終リタル後着衣ノ儘通身檢査ヲ爲シ入房セシム

三　起床自由ナラサル病者ノ如キハ適宜之ヲ行フヘシ

第二百八十三條　通身檢査ハ應禁物ノ藏匿ヲ豫防スルヲ以テ目的トス

第二百八十四條　通身檢査ハ入監出監其他監房入出毎ニ檢査ヲナスベシ

第二百八十五條　通身檢査ハ人員少數ナルトキハ一人宛之ヲ行ヒ他人ヲシテ見セシメサル樣注意スヘシ

第二百八十六條　罷役還房等一時多人數ノ場合ハ特定ノ檢身場ニ於テ之ヲ行フ

第二百八十七條　通身檢査ノ順序方法ハ概略左ノ如シ

一　衣服履物ヲ脫却（女子ハ褌ヲ脫セス）セシムヘシ但檢身場外ニ於テノ場合ハ着衣ノ儘之ヲ行フヿアルヘシ

二　毛髮鼻孔口中耳腋下手掌肛門（女子ハ肛門ヲ除ク）足ノ裏及手足ノ指間等

三　衣類ハ襟縫目袂綿内及履物ノ表裏等

四　繃帶又ハ膏藥ヲ施シタル部分

女子ニ在リテハ褌ハ前ニ垂レシムルニ止ムヘシ但必要アル場合ハ褌ヲ脫シ褌及陰部肛門ノ檢査ヲ爲スヘシ

携帶乳兒アル時ハ其者ヲモ檢査スヘシ

第二百八十八條　檢身場ニ於テ通身ノ檢査ヲ爲ス時ハ在監人檢束心得ニ依リ前條第二號及第四號ノ檢査ヲ爲スヘシ

第二百八十九條　總テ通身檢査ノ際ハ其携帶物品ノ檢査ヲ併行

シ若シ投棄藏匿等ノ擧動アル時ハ一層精密檢査ヲ行フヘシ

第二百九十條　監房檢査ニ從事シタルモノハ監房檢査簿ニ捺印シ若シ異狀アルヲ認メタル時ハ速ニ看守長又ハ看守部長ニ申告スヘシ

第二百九十一條　檢身場ニ於テ衣服ヲ脫シタル時ハ之ヲ袖疊ト褌及股引ヲ其內ニ入レ番號ヲ顯ハシ帶ヲ以テ其中央ヲ結束シ襟ニテ之ヲ獄衣掛ケニ掛ケシムヘシ

第二百九十二條　檢身場外ニ於テ衣服ヲ着換ヘシムル時ハ脫衣ハ袖疊短衣ハ二ツ折長衣ハ三ツ折ト爲シ褌及股引ヲ其內ニ入レ番號ヲ顯ハシ帶ヲ以テ其中央ヲ結ヒ之ヲ獄衣棚ニ收メシムヘシ

第十五章　差入及購求品檢査心得

第二百九十三條　在監人ノ差入物品ハ一定ノ場所ニ於テ之ヲ檢査スヘシ

第二百九十四條　總テ差入品ハ檢査ヲ經タル後ニ非サレハ如何ナル物件ト雖モ之ヲ領置シ若クハ下附スヘカラサルモノトス

第二百九十五條　衣類臥具書籍用紙飲食物等ノ差入ハ差入人ノ面前ニ於テ看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ之ヲ檢査シ危險物其他ノ包藏物又ハ通謀ノ媒介トナルヘキモノナキヤ精檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ監獄醫立會フヘキモノトス

第二百九十六條　差入品ノ檢査ハ速カニ之ヲ爲シ徒ラニ差入人ヲ控待セシムヘカラス

第二百九十七條　差入又ハ購求ノ飲食物ナルトキハ飯及菜ヲ分割シ且器物(官ノ器物ヲ除ク)ノ內外炊烹ノ熟否酒氣其他健康ニ害ナキヤ否ヲ檢査スヘシ

第二百九十八條　差入又ハ購求ノ衣類ハ其襟ヨリ裾ニ至ル迄之ヲ押ヘ或ハ揉ミ或ハ振ヒ綿入ナル時ハ綿内足袋ナル時ハ底ノ合目等ニ注意シ時宜ニ依リ解縫シテ精檢スヘシ

第二百九十九條　差入又ハ購求ノ臥具ハ特ニ其縫目及綿内ニ注意シ疑ハシキモノハ解縫シテ綿内ヲ精撿スヘシ

第三百條　差入又ハ購求ノ書籍ハ其綴目ニ注意シ紙ハ一枚ツヽ撿査シ若シ二枚以上合貼シアル表紙アル時ハ之ヲ除去スヘシ但購求品ニシテ疑ヒナキモノハ此限リニアラス

第三百一條　差入又ハ購求ノ用紙ハ一枚宛精密ニ檢査シ針穴及隱密通謀ノ有無ヲ注意スヘシ

第三百二條　差入物品ニシテ外人ヨリ郵送ニ係ルモノモ亦本心得ニ準シ檢査スヘシ

第三百三條　差入品ハ放免者ノ所持品ニアラサリシヤ否ヤニ注意スヘシ

第三百四條　差入又ハ購求品ヲ檢査シタル時ハ願書欄外ニ認印スヘシ

第十六章　入浴運動理髮ノ心得

第三百五條　入浴ハ在監人動作號令心得ニ依リ最モ嚴肅ニ之ヲ行フヘシ

第三百六條　入浴ハ規定ノ時間ニ於テ相當人員ヲ工場若クハ監房受持看守ヨリ受取一定ノ場所ニ整列セシメ人員點檢ノ上浴場ニ引卒スヘシ

第三百七條　入浴度數ハ別ニ之ヲ定ムルモ其毎回ノ入浴時間ヲ凡ソ十分以内トス

第三百八條　入浴ノ順序ハ工場別トシ有賞者ヨリ先ニスヘシ

第三百九條　炊掃農夫米搗煉瓦土練其他身体汚穢セシムル役業ニ在テハ毎日入浴セシムルヿヲ得

第三百十條　入浴中ハ最モ靜粛ナラシメ喧噪交談ハ之ヲ嚴禁スヘシ

第三百十一條　入浴ノ際注意スヘキ事項左ノ如シ

一　入浴者ノ擧動ニ注意シ濫リニ湯水ヲ費消シ又ハ徒ラニ長浴スル者ナキヤ否

二　温度ノ高低及時間（温度ハ冬季ハ攝氏四十五度夏季ハ四十三度ヲ標準トスヘシ）

三　清潔ノ思想ノ有無

四　忌ムヘキ体質及皮膚病者ノ區別

第三百十二條　入浴了リ歸場途中ハ手拭ヲ右手ニ携帶セシメ監房工場ニ至レハ人員點檢ノ上受持看守ニ引渡スヘシ

第三百十三條　刑事被告人ニ在テハ如何ナル場合ト雖モ共犯者ヲ仝時ニ入浴セシムヘカラス

第三百十四條　運動ハ在監人運動規程及在監人動作號令心得ニ依ルヘシ

第三百十五條　運動ハ獨房及監房ニ在テ就役スルモノ又ハ無定役囚ニ對シテハ毎朝拘置監ニ在テハ檢房ノ際之ヲ行ヒ其時間ハ三十分以内トス

第三百十六條　運動ヲ始ムルヿハ相當人員ヲ監房前ニ整列セシメ人員ヲ點檢シテ運動場ニ引率スヘシ

第三百十七條　運動ノ際ハ人員及其擧動ニ注意シ逃走等ノ不都合ナキ樣戒護ヲ愼密ナラシムヘシ

第三百十八條　運動ノ際手眞似若クハ形容又ハ其他ノ方法ヲ以テ通謀セントスルノ狀況ナキヤ否ニ注意スヘシ

第三百十九條　刑事被告人ニ在テハ如何ナル場合ト雖モ共犯者

ヲ同時ニ運動セシメサル樣注意スヘシ

第三百二十條　運動了リタル片ハ監房前ニ整列セシメ身体衣服ヲ檢査シタル上人員ヲ點檢シテ入房セシムヘシ

第三百二十一條　囚人ノ頭髮ハ一ケ月ニ一回以上之ヲ短薙シ髭髯ハ一週間ニ一回以上剃除セシムヘシ

第三百二十二條　鬚髮剃刈ハ囚人ニ對シテハ理髮夫刑事被告人ニ對シテハ押丁ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第三百二十三條　常ニ理髮夫ノ擧動ニ注目シ被理髮者トノ間ニ於ケル談話ハ之ヲ嚴禁スヘシ

第三百二十四條　理髮用ノ器具ハ理髮了リタル后ニ於テ一々消毒シ之ヲ點檢スヘシ

第十七章　接見書信ニ關スル心得

第三百二十五條　接見出願人アル片ハ受附看守ニ於テ其住所氏名綠由等ヲ接見用紙ニ記載シ看守長又ハ看守部長ニ提出スヘキモノトス

第三百二十六條　接見立會ノ命ヲ受ケタル看守ハ在監人ヲ接見室ニ引卒シ之ニ立會フヘシ

第三百二十七條　接見ニ立會フ片ハ瞬時モ他所ヲ顧ミ視點ヲ他ヘ移スカ如キヿナキ樣注意スヘシ

第三百二十八條　接見ニ立會中ハ威嚴ヲ正フシ視力並ニ聽力ノ鋭敏ナランヿヲ要ス

第三百二十九條　接見ハ大聲ニテ交談セシメサルハ勿論疎暴醜猥ニ渉ルノ言語ヲ發セシムヘカラス

第三百三十條　接見者並ニ在監人ノ擧動ハ精細ニ之ヲ視察シ姿貌形容等ヲ以テ相通スルカ如キヿナキヤ否ニ注意スヘシ

第三百三十一條　接見者並ニ在監人ノ言語ハ詳カニ之ヲ聽得シ如何ナル底聲ニテモ聞洩サヽル樣注意スヘシ

第三百三十二條　接見ノ際密カニ貨幣其他ノ物品ヲ受授スル事ナキヤ否ニ注意スヘシ

第三百三十三條　病室ニ於テ病者ト接見セシムル時ハ接見者ト病者トノ中間ニ位置ヲ占メ尙視察ヲ怠ルヘカラス

第三百三十四條　接見者ニシテ若シ接見ヲ請フ旨趣ニ違フタル談話ヲ爲スカ又ハ改悛ヲ妨クル恐アル時ハ其接見ヲ停止スヘキモノトス

第三百三十五條　接見ノ際親族思念ノ厚薄及其感動ノ狀況等ヲ視察シ著シキ事項ハ手帖ニ記載シ置キ以テ後日ノ參考ニ供スヘシ

但最近親族ノ接見ニハ敎誨師立會フヘキモノトス

第三百三十六條　發信ノ情願ハ各受持看守ニ於テ發信簿ニ記載シ普通發信ハ一定ノ日特別發信ハ其必要ノ時々第二課當直看守長ニ提出スヘシ

第三百三十七條　發信ノ認可アリタル時ハ日曜日若クハ休憩時ニ一定ノ場所ニ於テ認メシムルモノトス

第三百三十八條　書信ハ自書代書ヲ問ハス平易簡明ヲ主トシ漫ニ文飾スヘカラス但代書シタル時ハ一應讀聞ケ其可否ヲ確カムヘシ

第三百三十九條　書信ヲ認ムル際ニハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　書信認者ノ人員

二　貸與ノ筆墨ヲ他ニ使用シ又ハ包藏セントスルモノヽ有無

三　在監人互ニ談話通謀スルヿノ有無

第三百四十條　書信用紙ハ一枚ヲ限リトス若必要アル片ハ豫メ

認可ヲ受ケシムルモノトス

第三百四十一條　書信ノ認メ了リタルトキハ之ヲ取纏メ發信簿ト共ニ第二課看守長ニ提出スヘシ

第三百四十二條　入信ニシテ檢閲終リタルトキハ各擔當看守ニ送付スルヲ以テ擔當看守ハ各受信人ニ交付シ面前ニ於テ之ヲ看讀セシメタル上預置又ハ棄却ノ別ヲ問ヒ封筒及葉書ノ表面ニ其旨ヲ記入シ拇印ヲ徵シ速ニ第二課看守長ニ返戻スヘシ

第三百四十三條　信書其他秘密ニ關スルモノヽ代書ハ他人ニ聞知セシメサルノ注意アルヲ要ス

第三百四十四條　代讀ヲ受クヘキモノ其意味ヲ解スル力ナシト認メタルトキハ談話体ニ敎示スルノ注意アルヲ要ス

第三百四十五條　在監人ニ示スヘキ書類ニシテ官廳ノモノハ看守長ニ於テ之ヲ口達スト雖モ其他ハ擔當看守ニ送付シ擔當看守ハ本人ニ告知看讀セシムヘシ但告知濟ノ上ハ其旨及月日ヲ記入シ認印シテ主任看守長ニ返戻スヘシ

第三百四十六條　受信者書信看讀シタル際ノ擧動ハ克ク注意シテ其感否ヲ視察スヘシ

第十八章　入出監及訊問所呼出人ニ關スル心得

第三百四十七條　新入監者アルトキハ之ニ付添入監諸般ノ手續ヲ終リタル後看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ通身ノ檢査（女子ナルトキハ立會ヲ要セス）ヲ爲シ被告人ナルトキハ拘置監（女監取締ニテ檢査ヲ爲ス）停留監ニ四人ナルトキハ指定ノ監房受持看守ニ引渡スヘシ

但婦女ニシテ携帶乳兒アルトキハ其者ノ衣服モ檢査スヘシ

第三百四十八條　新入者ノ携有物品ハ消毒法ヲ施行スルニアラ

サレハ本人ニ交付若クハ領置スヘカラサルモノトス但消毒ノ必要ナキモノハ此限ニアラス

第三百四十九條　行刑ノ通知ヲ受ケタルトキハ拘置監看守部長ノ立會ヲ受ケ被告人ヲ監房ヨリ出シ訊問所ニ引卒スヘシ

第三百五十條　行刑諸般ノ手續了リタル時ハ看守長又ハ看守長ノ立會ヲ受ケ獄衣ニ着換シメ敎誨堂ニ引卒シ敎誨ノ後指定監房ノ受持看守ニ引渡スヘシ

第三百五十一條　放免ノ者ハ滿期ノ當日（休廳日ニ當ルトキハ其前日）放免房ヨリ訊問所ニ引卒スヘシ但此場合ニ於テハ総テ工場監房ノ下付品ヲ携帶セシムヘシ

第三百五十二條　前條ニ依リ諸般ノ手續終リタル時ハ敎誨堂ニ引卒シ敎誨ノ後元ノ監房ニ引卒シ受持看守ニ引渡スヘシ

第三百五十三條　放免當日ハ起床時ニ放免房ヨリ各自ニ臥具ヲ携帶出房セシメ訊問所ニ引卒放免ノ手續終リタレハ看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ通身ノ檢査ヲ爲シ自衣着用セシメタル上出門證ヲ添ヘ門衛看守ニ其旨ヲ告ケ出監セシムヘシ

但附加監視アルモノハ警察署ニ押送スヘキモノトス

第三百五十四條　放免スヘキモノ數人アル時ハ其當日一人毎ニ訊問所ニ引卒シ放免ノ手續ヲ爲スモノトス

第三百五十五條　出監者ノ被服臥具等ハ之ヲ取揃ヘ被服看守ニ引渡スヘシ

第三百五十六條　刑事被告人中出監スヘキモノアル時ハ所持品ヲ携帶セシメ訊問所ニ引卒シ諸般ノ手續終リタレハ看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ通身ノ檢査ヲナシ出門證ヲ添ヘ門衛看守ニ其旨ヲ告ケ出監セシムヘシ

第三百五十七條　上官ニ面接及懲罰其他取調訊問言渡等ノ爲メ

在監人ヲ訊問所ニ引卒シタル時ハ愼密ナル注意ヲ以テ戒護スヘシ

第三百五十八條　典獄看守長監獄醫教誨師ノ訊問所ニ出テタル時ハ其始終ニ於テ(禮)ノ號令ヲ用ヒ敬禮ヲ爲サシムヘシ

第三百五十九條　訊問所ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

一　人員及擧動(特ニ前科ノ有無ヲ査察スヘシ)

二　新入者ニ貸與フヘキ衣類ノ適否

三　身体ノ特徴

四　番號順ニ整列セルヤ否

五　言渡又ハ審問ノ事項

六　審問ニ答フル言語音聲口調

七　審問或ハ言渡ニ對スル感情

八　虚僞ノ申立ヲ爲スヤ否

第十九章　在監人檢束心得

第三百六十條　在監人ハ監房内ニ備付アル處ノ遵守事項ヲ確守シ監ノ内外ヲ問ハス常ニ靜肅ニシテ嚴正ナル紀律ノ下ニ起居進退ヲ爲サシメ整然秩序ヲ保チ總テ號令ヲ以テ一齊ニ動止セシムルヲ要ス

第三百六十一條　官吏ニ對シテハ苟モ傲慢不遜ノ處爲ナク常ニ恭ノ禮ヲ執ラシムヘシ

第三百六十二條　官吏ノ訊問ヲ受クルニ當リ事實ヲ隱蔽シテ不實ノ陳供ヲナシ或ハ無禮ノ言ヲ吐露スルカ如キ一ナク總テ其應答ヲ愼重ナラシムヘシ

第三百六十三條　官吏ニ封スル稱呼ハ典獄殿何課長殿分監長殿何看守長殿何醫務所長殿何醫師殿何教務所長殿何教誨師殿何

教師殿何看守部長殿何看守殿何女監取締殿何授業手殿何押丁殿ト唱ヘシメ返辭ハ總テ「ハイ」ト云ハシムヘシ

第三百六十四條　在監人相互ノ稱呼ハ何號サント唱ヘシムヘシ

第三百六十五條　同囚ト交談ノ必要アル時ハ看守者ノ許可ヲ得テ明瞭ニ之ヲ爲サシムヘシ

但シ其日ノ作業ニ從事シ緊急ナル塲合ハ此限リニアラス

第三百六十六條　在監人ハ如何ナル事情アルヲ問ハス苟モ監獄構内ヲ獨歩スルカ如キヿナカラシムヘシ

第三百六十七條　監房ノ座席ハ番號順序ニ依リ監房側面ノ方向ニ各背面ニ向ハシメ相當ノ距離ヲ保チ兩手ヲ膝ノ上ニ置キ正座ヲ爲サシムヘシ

但シ安座ハ平日ニ在テハ入房シテ監房人員點檢ヲ終リ卅分後ヨリ就寢時迄日曜日ニ在テハ全ク入房終リ卅分後ヨリ晩食時迄喫飯了リ一時間後ヨリ就寢時迄免役日ニ在テハ朝食事了ヲ卅分後ヨリ教誨時間迄教誨了リ全ク入房シテ卅分後ヨリ晝食時迄喫飯了リ一時間後ヨリ夕食時迄喫飯終リ一時間後ヨリ就寢時迄安座ノ號令ヲ用ヒテ之ヲ許スヘシ

第三百六十八條　監房内ニアリテハ濫リニ起歩シ或ハ窓外ヲ望見シ唾ハク等ノ處爲ナカラシムヘシ

第三百六十九條　囚人出入ノ際ハ眼鏡ヲ使用セシメサルハ勿論懷手其他許可ヲ得サル物品ヲ携帶セシムヘカラス

第三百七十條　就寢時限外濫リニ横臥シ又ハ臥具等ヲ使用セシメサルハ勿論就寢中他囚ノ安眠ヲ妨クルカ如キ處爲ナカラシムヘシ

第三百七十一條　在房中書籍ハ各自座席ノ前ニ置キ出房ノトキハ整然棚上ニ置カシムヘシ

第三百七十二條　物件ヲ窓格子ニ掛ケ或ハ外部ニ投棄スルカ如キ處爲ナカラシムヘシ

第三百七十三條　監房廊下ヲ歩行スルトキハ靜肅ニシテ其中央ヲ通行シ決シテ脇見等ヲ爲サシムヘカラス

第三百七十四條　行進中ハ決シテ左右ヲ顧眄シ又ハ手ヲ振リ或ハ体ヲ屈曲スル等ノコトナク兩手ヲ垂下シテ体ニ附着シ五指ヲ閉接セシメ頭部ハ常ニ俯向セシメ尚不淨器ノ外ニ唾睡等ヲ爲サシムヘカラス

第三百七十五條　行進中ハ先後ヲ爭ヒ或ハ人ヲ排擠スル等ノコトナク歩調ヲ整ヘ三名以上ハ二列ト爲シ苟モ列ヲ乱ス等ノ事ナカラシムヘシ

第三百七十六條　監房ニハ一晝夜輪番ヲ以テ房内掃除夫一名乃至二名ヲ置キ房内ノ掃除其他臥具ノ配置及常置器具等ヲ一定ノ場所ニ置カシムヘシ

第三百七十七條　工場ニ於テハ役業ヲ嫌厭遲緩シ或ハ口實ヲ構ヘテ怠ルカ如キコトナク專心精勵セシムヘシ

第三百七十八條　工場ニ於テ故ナク座席ヲ離レ又ハ他人ノ座席ヲ侵スカ如キコトナカラシムルハ勿論器械其他ノ物件ヲ散乱シ又ハ粗造ノ物品ヲ製出スル等ノ處爲ナカラシムヘシ

第三百七十九條　各工場ニ於テハ掃除夫一名乃至二名ヲ置キ配食其他工場ノ掃除等ニ從事セシムヘシ但掃除夫ハ行狀善良ナルモノヲ撰定スヘシ

第三百八十條　手拭ハ工場用一筋トシ使用セサルトキハ正シク八ツニ疊ミ右腰ノ稍前部ニ挾マシム但シ免役日ノ前日ニ限リ監房ヘ携帶セシムヘシ

監房ハ手拭一筋ヲ備置共用セシム

第三百八十一條　理髮ハ一ヶ月ニ一回以上髭鬚ハ一週間ニ一回以上各工場監房順番ヲ以ヲ剃刈セシム書信ハ日曜日ノ午前工場ニ於テ衣類ノ補綴ハ午後監房ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ但特別ノ場合ハ此限リニアラス

第三百八十二條　囚人訴願ハ工場ニ於テハ休憩時ニ受持看守ノ面前三歩ノ處ニ於テ直立シ兩手ヲ膝ニ當テ体ノ上部ヲ前ニ傾カシメ而シテ發言セシムヘシ決シテ就役中恣ニ自席ヲ離レ出願セシムルカ如キ處爲ナカラシムヘシ

但監房ニ於テハ格子前ニ進ミ正座ヲ爲シ兩手ヲ膝ニ當テ頭部ヲ稍前ニ傾ケ低聲ニテ發言セシメ決シテ粗忽ノ言語ヲ發セシムヘカラス

第三百八十三條　教誨場及特赦假出獄賞與等ノ式場ニ參集セシムルトキハ非禮ノ言行ナク最モ謹愼シ容姿ヲ正フシテ兩手ヲ膝ノ上ニ置キ整然着座セシムヘシ

第三百八十四條　未丁年幼年囚及懲治人學業ヲ受クルトキハ專心勉勵スヘキヿヲ促カシ特ニ行狀方正ナラシムヘシ

第三百八十五條　受業場ニ於テハ常ニ教師ノ命令ヲ遵奉セシメ決シテ背戻スルヿナカラシムヘシ

第三百八十六條　病者ハ監獄醫ノ指揮ニ從ハシメ決シテ休役及藥餌ヲ强請スルカ如キヿナカラシムルハ勿論虛病ヲ構ヘテ診察ヲ求メ或ハ疾病ニ托シテ役業ヲ怠ル等ノ處爲ナカラシムヘシ

第三百八十七條　報令ニ依リ動止スヘキモノ左ノ如シ

第一　起床令

一　此報令ニテ各囚ヲシテ一齊ニ靜肅ニ起床セシメ先ツ房內掃除夫ヲシテ雨戸或ハ障子ヲ明放セシメ臭氣ヲ除去

シ各自ハ蒲團ヲ正シク四ツ折敷蒲團ハ二ツ折ト爲シ番號ヲ表ハシ枕ヲ其上ニ載セ之ヲ監房中央ノ場所ヘ置キ定席ニ正座セシメ房内掃除夫ヲシテ順次一定ノ場所ニ一行若シクハ二行ニ紀律能ク番號ヲ表ハシ累積セシメ枕ハ其上ニ並列シ莞莚ハ其前面ニ積マシムヘシ

第二

開房令

一　此報令ニテ極メテ瞬速ニ各監順次開扉ヲ爲シ房内掃除夫ヲ除キ一人宛順次出房セシメ撿身場ニ至ラシムヘシ

二　撿身場ニ入リタルトキハ最モ靜肅ナラシメ被服等ヲ脫シタルトキハ各工場或ハ監房區別ノ番號ニ依リ被服掛ケニ釣下ケ褌及股引等ハ其中ニ入レ標番號ヲ表ハシ帶ヲ以テ其中央ヲ結ヒ置カシメ役服又ハ監房衣ト換着セシムヘシ

三　衣服ハ常ニ正シク着用シテ容姿ヲ整ヘシメ決シテ体ヲ顯ハスヿナク又帶ハ必ラス後部ニ正シク結ハシムヘシ

四　檢身ハ左ノ順序ニ依ラシムヘシ

一　裸体ノ儘撿身官吏ノ前面ニ停立セシムヘシ但女子ハ褌ヲ着セシム

二　兩手ヲ伸ヘテ上ニ擧ケ指ヲ開カシムヘシ

三　口ヲ開カシメ後自巳ノ番號ヲ唱ヘサシム

四　股ヲ開キテ足ヲ擧ケシムヘシ

但女子ハ褌ヲ解キ前ニ垂レシムルニ止ムヘシ

五　監房ノ掃除ハ各目出房ノ後房内掃除夫ヲシテ房内ヲ拂拭シ常置器具ハ一定ノ場所ニ排列セシムヘシ掃除了レハ一般ノ例ニ依リ監房受持看守ニ於テ出役セシムヘシ

六　工場受持看守ハ撿身場前豫定ノ場所ニ於テ監房受持看

守ヨリ其人員ヲ受取點檢シテ工場ヘ引率シ處定ノ場所ニ整列セシム

但一組二十名以下トス

七　工場受持看守ハ受持囚人ヲ工場ニ引率シタルトキハ再ヒ人員ヲ點檢シ盥嗽及身体拭淨法ヲ行ハシメ了ツテ喫飯セシムヘシ

第三　就役令

一　此報令ニテ各工場一齊ニ就役セシムヘシ

二　工場監房内ノ用便時間ハ別ニ定ムル處ニ依ル

第四　休役令

一　此報令ニテ各工場一齊ニ休役シ喫飯ノ用意ヲ爲サシム

二　喫飯了レハ各囚ヘ書籍ノ看讀ヲ爲サシムルヿヲ得但シ就役ノ令アレハ書籍ハ各自ノ前ニ置キ直チニ就役セシ

メ工場掃除夫ヲシテ之ヲ集合セシムヘシ

第五　午後就役令

一　此報令ニテ各工場一齊ニ就役セシム

第六　罷役令

一　此報令ニテ各工場一齊ニ罷役シ洗手及身体拭淨法ヲ行ヒ了リテ喫飯セシムヘシ

第七　還房令

一　此報令ニテ囚人ヲ一定ノ場所ニ集メ二十名宛ヲ點檢シテ檢身場ニ前豫定ノ場所ニ押送シ監房受持看守ハ工場受持看守ヨリ人員ノ引繼ヲ受ケ更ニ之ヲ點檢シテ檢身場ニ進行セシムヘシ

二　檢身了レハ監房衣ニ換着シ順次還房セシム

第八　就寢令

一　此報令ニテ前後ヲ爭ヒ或ハ喧噪雜踏スルヿナク極メテ靜肅ニ房內掃除夫ヲシテ順次臥具ヲ各自ノ背後ニ配置セシメ一房每ニ寢ニ就カシムヘシ

二　就寢中裸體ニテ寢臥シ又ハ枕ノ上ニ蒲團ヲ敷等ノ處爲ナカラシムヘシ

第三百八十八條　日曜祭日ニ際シ監房ニ於テ盥嗽及喫飯セシムルトキハ左ノ例ニ依ル

一　盥嗽ハ一房每ニ開房シ靜肅ヲ旨トシ順次盥嗽セシムヘシ

二　喫飯ハ炊夫ヲシテ配食セシメ配食ノ了リタル監房ヨリ順次喫飯セシムヘシ喫飯了レハ炊夫ヲシテ食器ヲ集メサセ尙監房掃夫ヲシテ房內ヲ掃除セシムヘシ

第三百八十九條　分房ニ於テ就役セシムル場合ニ於テハ一般ノ例ヲ準用スヘシ

第三百九十條　本心得ニ於テ用ユル號令ハ別ニ定ムル處ノ在監人動作號令心得ニ依ル

第二十章　在監人動作號令心得

第三百九十一條　在監人ノ動作ハ總テ號令ヲ用ユヘシ

第三百九十二條　號令ハ在監人ノ動作ヲ嚴肅ニシテ其秩序ヲ整正シ命令ヲ愼重セシムルヿヲ訓練シ以テ外部ヨリ紀律的精神ヲ涵養スルノ用意アルヿ要ス

第三百九十三條　號令ハ簡明正確ニシテ威嚴アルヲ要ス

第三百九十四條　號令ハ豫令及動令ヲ明確ニ區別スヘシ

豫令ハ明瞭ニシテ長ク動令ハ快活ニシテ短キヲ要ス

第三百九十五條　號令ノミニシテ其意ヲ盡サヽル場合ニ於テハ

命令ヲ用ユヘシ

第三百九十六條　凡ソ在監人員ノ點檢ヲナスハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　氣ヲ着ケ

此令ニテ直立兩手ヲ垂下シテ姿勢ヲ正フセシム

二　右ヘ準ヘ

此令ニテ頭ヲ右ニ向ケ隊列ヲ整頓セシム

三　直レ

此令ニテ正面ニ復セシム

四　番號

此令ニテ右翼ヨリ順次番號ヲ唱ヒシム

五　禮

此令ニテ傾首ノ禮ヲナサシム

六　元ヘ

此令ニテ頭ヲ原形ニ復サシム

第三百九十七條　工場監房等ヘ典獄其他敬禮スヘキ人ノ巡視スルトキハ左ノ號令ヲ下シ在監人ヲシテ一齊ニ敬禮セシムヘシ

但典獄監房巡視ノ際ハ囚人ニ敬禮ヲ行ハシムヘキヤ否ヲ經伺ノ上號令スヘシ

一　氣ヲ付ケ

此令ニテ座業者ハ正座シテ兩手ヲ膝上ニ置キ立業者ハ直立シテ兩手ヲ垂下シテ姿勢ヲ保タシム

二　禮

此令ニテ傾首ノ禮ヲナサシム

三　元ヘ

此令ニテ頭ヲ原形ニ復シ役業中ノモノハ直チニ就業セ

シム

第三百九十八條　行進及停止セシムルトキハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　右(左)向ケ右(左)

此令ヲ下ス前ニ一列又二列ノ命令ヲ爲シ此令ニテ右又ハ左ニ向ケシム

二　前ヘ進メ

此令ニテ左足ヨリ行進ヲ起サシム

三　止レ

此令ニテ行進ヲ止メシム

第三百九十九條　役業ニハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　就役用意(五分前)

此令ニテ器械素品ヲ受取ラシム

二　就役

此令ニテ直チニ作業ニ就カシム

三　休役

此令ニテ直チニ休役セシム

四　罷役

此令ニテ直チニ役ヲ止メ器械及素製品ヲ看守者ニ還納セシム

第四百條　喫飯セシムルトキハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　食事用意

此令ニテ工場掃夫ヲシテ食器及食物ヲ配置セシム

二　着座

此令ニテ順次喫飯臺ニ向ヒ着席セシム但着座ノ儘喫飯セシムルトキハ此令ヲ省ク

三　食事

此令ニテ全囚一齊ニ默禮シテ喫飯セシメ喫飯了レハ食器ヲ飯臺ノ上ニ置カシムヘシ

四　食器ヲ收メ

此令ニテ工場掃除夫ヲシテ食器ヲ收メシムヘシ

第四百一條　日曜日又ハ祭日ニ際シ監房ニ於テ喫飯セシムル片ハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　食事用意

此令ニテ喫飯ノ用意ヲ爲サシメ一面炊夫ヲシテ配食セシム

二　食事

此令ニテ配食ノ了リタル監房ヨリ順次默禮シテ喫飯セシムヘシ

三　食器收メ

此令ニテ炊夫ヲシテ食器ヲ收メシムヘシ

第四百二條　入浴セシムル片ハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　脫衣（キモノヌケ）

此令ニテ脫衣ヲナシ一定ノ置場ニ整置セシム

二　入浴（ハイレ）

此令ニテ順次入浴セシメ二列ニ前面ニ向ハシ入浴セシム

三　洗淨（アラヘ）

此令ニテ全囚洗場ニ上ラシメ身體ヲ洗淨セシム

但囚人相互ニ洗淨セシムヘカラス

四　入浴（ハイレ）

此令ニテ再ヒ入浴セシム

五　出浴（アガレ）

此令ニテ全囚ヲ出浴セシメ直ニ身體ヲ拭ヒ獄衣場ニ向

ヒ整列セシム

六　着衣（キモノツケ）

此令ニテ着衣セシム

第四百三條　還房後人員點檢ヲナスニハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　氣ヲ着ケ

此令ニテ一齊ニ正座セシメ受持看守ハ一房毎ニ囚人在房者ノ番號ヲ呼ヒ應答者ヲシテ順次正面ニ向ハシム

二　番號

此令ニテ右翼ヨリ順次番號ヲ唱ヒシム

三　禮

此令ニテ傾首ノ禮ヲナサシム

四　元ヘ

此令ニテ頭ヲ原形ニ復スルト同時ニ元ノ側面ニ向ハシム

第四百四條　起床後監房人員點檢ヲナスニハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　氣ヲ付ケ

此令ニテ一齊ニ正面ニ向ヘ正座セシム

二　番號

此令ニテ右翼ヨリ順次番號ヲ唱ヒシム

三　禮

此令ニテ傾首ノ禮ヲナサシム

四　元ヘ

此令ニテ頭ヲ原形ニ復スルト同時ニ元ノ側面ニ向ハシム

第四百五條　盥嗽ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　盥嗽用意

此令ニテ豫定ノ場所ニ整列セシム

二　右(左)向ケ右(左)

此令ニテ一定ノ人員ヲ限リ右又ハ左ニ向ケシム

三　前ヘ進メ

此令ニテ盥嗽場ニ至ラシム

四　盥嗽

此令ニテ盥嗽セシム

五　止メ

此令ニテ盥嗽ヲ止メシム

六　右(左)向ケ右(左)

此令ニテ右又ハ左ニ向ケシム

七　前ヘ進メ

此令ニテ豫定ノ場所ニ至ラシメ順次整列セシム

第四百六條　工場ニ於テ拭淨法又ハ洗手ヲ爲サシムル場合ハ第十五條ノ例ニ準ス

第四百七條　用便ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　用便用意

此令ニテ用便者ヲ一定ノ場所ニ整列セシメ便所ノ廣狹ニ依リ人員ヲ限リ左ノ令ヲ下スヘシ

二　用便

此令ニテ順次行厠セシメ前者ノ復席スルヲ待ツテ後者ヲ行厠セシムヘシ

第四百八條　就寢ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下スヘシ

一　臥具配置

此令ニテ房内掃除夫ヲシテ右(左)ヨリ順次臥具ヲ各自

背後ニ配置セシメ一房毎ニ左ノ令ヲ下シテ就寢セシムヘシ

二　休メ

此令ニテ極メテ靜肅ニ右(左)ヨリ順次臥具ヲ伸ヘ枕ニ就カシメ頭部ハ必ラス蒲團ノ外ニ顯ハサシムヘシ

第四百九條　敎誨場ニ於テ敎誨ノ前後ニ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　禮

此令ニテ佛檀開閉ノ片ニ一齊ニ低頭默禮セシムヘシ

二　元ヘ

此令ニテ原形ニ復サシムヘシ

但敎誨師ノ着席及退場ノ片ハ號令ヲ用ヒスシテ一齊ニ默禮セシム

第四百十條　典獄(分監長)敎誨ニ臨場ノ片ハ其着席及退場ノ片ニ於テ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　禮

此令ニテ一齊ニ默禮セシムヘシ

二　元ヘ

此令ニテ原形ニ復サシムヘシ

第四百十一條　室外運動ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ用ユヘシ

一　運動用意

此令ニテ房外豫定ノ場所ニ整列セシメ第六條ノ號令ヲ下シ尙左ノ號令ヲ用ユヘシ

二　右(左)向右(左)

此令ニテ一列トナシ右又ハ左ニ向ケシム

三　前ヘ進メ

此令ニテ運動場ヘ並足ニテ行進セシメ三尺以上ノ距離

ヲ保タシム

四　速歩（ハヤアシ）

此令ニテ順次歩ヲ速ヌシム

五　運動止（ヤメ）メ

此令ニテ行進ヲ止メシム

六　前ヘ進メ

此令ニテ房外豫定ノ場所ヘ行進セシム

七　止レ

此令ニテ止リ正面ニ向ハシム

八　番號

此令ニテ右翼ヨリ順次番號ヲ唱ヒシメ畢テ身体被服ヲ

九　搜檢スヘシ

入房

此令ニテ各自指定ノ監房ニ入リ着座セシム

第二十一章　服裝及帶劍心得

第四百十二條　服裝ヲナシタル片ハ常ニ不動ノ姿勢ヲ以テ威嚴ヲ保持スルヲ要ス

第四百十三條　出勤ノ際ハ必ラス制規ノ服裝ヲ爲シ手帖名刺（五枚以上）捕繩呼子笛認印ヲ携有スヘシ

第四百十四條　常ニ被服ヲ清潔ニシ頭髮ハ前部三分以下后部一分以下ニ短薙シ鬚髯ハ清潔ニ保チ若クハ剃除スヘシ

第四百十五條　総テ貸與品ハ叮嚀ニ保管シ破損若クハ汚穢セサル樣注意シ金屬類ハ時々之ヲ磨キ手入ヲ怠ルヘカラス

第四百十六條　総テ給與品ハ鄭重ニ使用シ保存滿期ノ物品ハ使用スヘカラス

第四百十七條　冬服夏服各一着ハ保存期限經過后ト雖モ一ケ年間ハ特ニ之ヲ保管シ置クヘシ

第四百十八條　帽ハ正直ニ冠戴シ非常ノ場合ニ限リ帽紐ヲ顎下ニ掛クヘシ

第四百十九條　左ノ場合ニ於テハ穿靴セシメス

但看守長ニ於テ指示シタル者ハ此限リニアラス

一　遠路護送及外役出張

二　在監人還房后ヨリ起床迄

第四百二十條　脚氣病足痛等ノ者ハ醫師ノ證明ニ依リ典獄ノ認可ヲ得テ脫靴スルヿヲ得

第四百二十一條　遠路護送及外役ノ場合ニハ紺色ノ脚半足袋及草鞋ヲ用ヒ又ハ還房後ヨリ起床時迄ハ紺足袋ニ麻裏白緒草鞋ヲ用フヘシ

第四百二十二條　晴天ニ長靴（泥濘積雪ノ場合ハ此限リニアラス）雨天ニ短靴ヲ用ヒ又ハ袴ノ裾ヲ折リ裏面ヲ露ハス等ノ事アルヘカラス

第四百二十三條　一定ノ服裝ヲ要スル場合ニ於テ短靴ノ者ト長靴ノ者トアル者ハ其長靴ヲ穿チタルモノハ袴ノ內部ニ隱シ短靴ノ裝ト爲スヘシ

第四百二十四條　製服着用ノ際ハ腰部ニ手巾等ヲ下ケ又ハ長靴ヲ穿ツ者釣紐ヲ外部ニ露ハス等容儀ヲ紊ルヘカラサルハ勿論尙左ノ各號ニ係ルモノハ用フヘカラス但第二號第三號ノ場合ニ於テ醫師ノ證明ニ依リ典獄ノ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

一　杖及傘木履

二　頸卷及呼吸器

三　眼鏡

第四百二十五條　帶劍ハ護身ノ具ト心得萬止ムヲ得サル場合ノ外拔劍スヘカラス但拔劍スヘキ場合ヲ例示セハ左ノ如シ

一　在監人ヨリ身体ニ對シ危險ナル抵抗ヲ受ケ他ニ防禦ノ術ナキ時

二　在監人破獄越獄又ハ逃走セントシテ兇器ヲ以テ危險ナル抵抗ヲ爲シ他ニ防禦捕獲ノ術ナキ片

三　非常事變ニ際シ上官ノ指揮アルトキ

第四百二十六條　前條第一號第二號ノ場合ニ於テハ兇行者ヲ傷ケタルト否トニ拘ハラス直チニ其狀況ヲ具シ看守長及看守部長ニ報告スヘシ

第四百二十七條　拔劍后暴行者既ニ畏服ノ狀況アル片ハ穩カニ之ヲ取押ヘ決シテ勢ニ乘シテ負傷セシムル等ノコアルヘカラス

第四百二十八條　帶劍ハ其刀帶ヲ上衣ノ下ニ締ムヘシ外套着用ノ片亦同シ但外套着用ノ際ハ晴雨ニ拘ハラス劍柄ヲ露ハスヘシ

第四百二十九條　囚人戒護中ハ監ノ内外ヲ問ハス劍柄ヲ前ニシ左手ヲ以テ之ヲ握リ拇指ニテ柄頭ヲ押ヘ脈部ヲ臍宵部ニ接スヘシ

第四百三十條　在監人ノ身体搜檢又ハ戒具ヲ施ス場合ニ於テハ帶緒ヲ刀帶ニ二重ニ卷付ケ置クヘシ

第四百三十一條　登退廳ニハ必ス外套ヲ携帶セシムルト雖モ出勤點檢ノ際ニ限リ外套ヲ携帶セサルモノトス

第四百三十二條　外套携帶ノ方法左ノ如シ

一　雨霞及乙種外套ヲ内ニ納メテ之ヲ捲キ其兩端ヲ少シク内

ニ折リ締革ヲ以テ之ヲ結束シ左肩ヨリ右脇下ニ掛クヘシ

二　夏衣着用期限中ハ前號ノ例ニ依リ雨覆及ヒ乙種外套ノミヲ携帶スルヿヲ得

第四百三十三條　外套ハ降雨雪霰ノ場合ニ非サレハ着用スルヲ許サス

但十二月ヨリ三月末日迄ハ其時々看守長ヨリ指示シテ防寒ノ爲メ着用セシムルヿアルヘシト雖モ晝間事務所ニ入ルニハ必ス之ヲ脱スヘシ

第四百三十四條　乙種外套ハ防寒ノ爲メニ着用ヲ許サス雨覆ハ微雨霏雪ノ時ト雖モ成ルヘク使用スヘカラス

第四百三十五條　外套ヲ使用セサル片ハ事務所廊下又ハ工場一定ノ場所ニ紀律能ク掛ケ置クヘシ

第四百三十六條　制服及帽日覆着用期限左ノ如シ

但時宜ニ依リ典獄ニ於テ適宜伸縮スルヿアルヘシ

冬服　自十月一日　至五月三十一日
夏服　自六月一日　至九月三十日
帽日覆　自六月一日　至九月三十日

第二十二章　休暇病氣欠勤看護忌引ニ關スル心得

第四百三十七條　休暇ヲ請ハントスル者ハ休暇證ヲ差出シ認可ノ證印ヲ受クヘシ

但休暇中ト雖モ取消シ出頭ヲ命シタル時ハ直ニ出勤スヘシ

第四百三十八條　休暇中三里以外ノ地ニ至リ日歸リセントスル時ハ届出ツヘシ

第四百三十九條　休暇中旅行シ他ニ宿泊セントスル時届出テ承認ヲ受クヘシ

第四百四十條　疾病ニ罹リ出勤スルヿ能ハサル時ハ出勤時間迄ニ診斷書ヲ添ヘ欠勤屆ヲ差出スヘシ

但規定時間ニ診斷書ヲ得ル能ハサル時ハ屆書ノミ差出シ置キ正午十二時迄ニ診斷書ヲ差出スヿヲ得

第四百四十一條　勤務中疾病ニ罹リ實際勤務ニ堪ヘ難キ時ハ看守長ニ申出テ監獄醫ノ證明ヲ受ケタル後看守長ノ許可ヲ得テ退廳スヘシ但監獄醫不在ニシテ診察ヲ得ル能ハサル時ハ監獄醫ノ證明ヲ要セサルモノトス但晝勤者ハ午後二時晝夜勤者ハ午後十二時ヲ過クルニアラサレハ欠勤トス

第四百四十二條　欠勤日數數日ニ亘ルモ七日ヲ越ユルヿヲ得ス若シ七日以上引續キ欠勤セントスルモノハ七日以內每ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ屆出ヘシ

第四百四十三條　欠勤屆ニ添付スル醫師ノ診斷ハ典獄ニ於テ時宜ニ依リ特ニ醫師ヲ指名スルヿアルヘシ

第四百四十四條　疾病ノ爲メ欠勤中ノモノハ外出ヲ禁ス若シ醫家ニ至リ診察治療及調劑ヲ乞ハン爲メ外出スル場合ハ此限リニアラス

第四百四十五條　病狀ニ依リ轉地療養又ハ外出運動ヲ要スル時ハ診斷書ヲ添ヘ願出認可ヲ受クヘシ

第四百四十六條　病氣欠勤中ハ看守長醫師ヲシテ病床ニ就キ視察セシムルヿアルヘシ

第四百四十七條　父母疾病ノ爲メ危篤ニ迫リ又ハ危篤ノ旨書面若クハ電報ニテ通知アリタル時ハ他ニ看護スヘキモノナキ時ニ限リ看護願ヲ差出スヘシ（書面電報ハ原書ニ添付ス）

但看護願ニハ危篤者ノ診斷書ヲ添付スヘシ若シ危篤者ノ住居地遠隔ナル時ハ看護願ノ認可ヲ受ケ歸省后直ニ診斷書ヲ送付

スヘシ

第四百四十八條　看護願書ニ添付スヘキ醫師ノ診斷書ニ左ノ事項ヲ具備シタルモノタルヲ要ス

一　患者ノ住所身分氏名

二　年齡

三　病症

四　病狀

五　發病月日

六　豫後

七　診察年月日

八　醫師ノ住所氏名捺印

第四百四十九條　親族死亡シ服忌例ノ適用ヲ受クヘキモノハ忌引（遠慮）届ヲ差出スヘシ

第四百五十條　父母ノ祭日ハ休暇ヲ受ル事ヲ得但前日ニ届出ツルヲ要ス

第四百五十一條　同居者中傳染病者アル片ハ速ニ届出ツヘシ交通ヲ遮斷セラレ出勤スルヿ能ハサルトキハ速ニ他人ヲシテ届出シムルヲ要ス

第四百五十二條　引籠日限中ニ於テ出勤セシ時ハ出勤届ヲ差出スヘシ

第四百五十三條　總テ提出スヘキ願届ノ用紙ハ半紙トシ字体ハ楷行明瞭ナラシムルヲ要ス但其書式ハ別ニ定ム

第四百五十四條　願届書ハ代書代印ヲ許サス但疾病ノ爲メ自書スル能ハサル時ハ此限リニアラス

第二十三章　詰替戸籍異動及認印

名刺ニ關スル心得

第四百五十五條　各分監ニ詰替ノ命ヲ受クタルモノハ辭令拜受ノ當日ヨリ五日以内ニ出發赴任スヘシ

第四百五十六條　病氣其他ノ事故ニ依リ期限内ニ赴任スルコト能サル時ハ其事由ヲ具シ延期ヲ出願スヘシ

第四百五十七條　出發及到着ノ際ハ届書ヲ差出スヘシ

但出發届ハ其前日舊任廳ニ到着届ハ其當日着任廳ニ差出スヘキモノトス

第四百五十八條　認印ハ圓形ノ經三分トシ字体ヲ明瞭ニシテ凡テ性ヲ用ユヘシ但職員中同性ノ者アル時ハ名頭ノ字一字ヲ加フヘシ

第四百五十九條　名刺ハ縱三寸横一寸五分トシ字体ハ楷書ニスヘシ但詰所及看守部長ノ職名ハ五號官氏名ハ四號活字ト爲スヘシ

第四百六十條　婚緣離婚家族出生死亡養子緣組住所移轉其他戸籍上ニ異動ヲ生シタル場合ハ其都度届出ツヘシ

第二十章　諸願届書式ニ關スル心得

○病氣欠勤届　自分儀

何々病之爲メ勤務ニ堪難候條本日ヨリ向何日間欠勤加養仕度別紙醫師之診斷書相添此段及御届候也

年　月　日

看守（押丁）（女監取締）（授業手）　何之　某㊞

新潟監獄
典獄何之誰殿

○忌引届

何縣何郡市何町村字何々
祖父母（親屬ノ關係）何之某

右何年何月何日死亡（死亡ノ報ニ接シ）候間成規ノ忌服相受ケ度候條此段及御届候也

年　月　日

看守（押手）女監取締（授業手）何之某

新潟監獄
典獄何之誰殿

○遠慮届

何男　何女　某

同年何月何日生

右何年何月何日他家ヘ養子養女ニ遣ハシタルモノニ對シテハ右何縣何郡市町村字何々何之某ヘ養子養女トシテ緣組置候處死亡候條遠慮仕候間此段及御届候也

○出生届

何男　何女　某

右何年何月何日出生候條此段及御届候也

年　月　日

看守（押丁授業手）女監取締　何之某

新潟監獄
典獄何之誰殿

○婚姻届

何縣何郡市町村大字何々
何之某何女（姉妹孫姪）
妻　某
何年何月何日生

右今般婚姻候條此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄何之誰殿

看守（　）何之某

○入夫婚姻届

何縣何郡市町村大字何々
身分職業戸主何之某何女（　）
妻　某
何年何月何日生

右入夫婚姻候條此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄

看守（　）何之某
殿

○養子縁組届

何府縣何郡市町村大字何々
身分職業戸主（何之某何男何女）
養父（養子）何之某

右養子(養女)縁組候條此段及御届候也　　養母(養子)　某

年　月　日

新潟監獄
典獄　殿

看守(　)何之某

○離婚離縁届

何府縣何郡市町村大字何々
養父(養子)　何之某
養母(養子)　某
妻　某

右離縁(離婚)除籍仕候條此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄　殿

看守(　)何之某

○庶子入籍届

庶子男(女)　何之某
何年何月何日生

右入籍仕候條此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄　何之　誰殿

看守(　)何之某

○改姓名届

自分儀

今般何々（入夫婚姻養子縁組襲名絶家再興）之爲メ何々上改姓（名）候條此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄　何之　誰殿

看守（女監取締押丁）何之某

○住所移轉届

今般何市町村何々何番戸（何ノ某方）ヘ移轉仕候條此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄　何ノ　誰殿

自分　儀

看守（　）何ノ某

○祭日届

明何日實父母養繼母祭日ニ付佛事相營ノ爲メ欠勤仕候間此段及御届候也

年　月　日

新潟監獄
典獄　何之　誰殿

自分　儀

看守（　）何ノ某

○赴任出發届

何監獄何分監詰ヲ被命候ニ付何月何日出發赴任仕候條此段及御届候也

自分　儀

年月日

新潟監獄　　看守（　）何之某

典獄　　殿

○到着届　　自分儀

本監詰ヲ被命候ニ付何月何日任地出發本日到着仕候條此段及御届候也

年月日

新潟監獄　　看守（　）何ノ某

典獄何ノ誰殿

○出勤届　　自分儀

何々病ノ爲メ何月何日ヨリ何月何日迄病氣欠勤及御届置候處全快致シ候ニ付本日ヨリ出勤仕候間此段及御届候也

年月日

新潟監獄　　看守（　）何ノ某

典獄　　殿

○外泊届　　自分儀

賜暇中何月何日ヨリ何月何日迄何縣郡市町村何々何ノ某方へ他行宿泊仕候間此段及御届候也

年月日

看守（　）何之某

新潟監獄
典獄　殿

◎外出願

自分儀

何々病ノ爲メ何月何日ヨリ何月何日迄引籠加養及御届置候處醫師ノ診斷ニ依リ毎日何回市町村（若クハ部外）運動仕度候間御認可被成下度別紙診斷書相添此段奉願候也

年　月　日

看守（　）何之某

新潟監獄
典獄　殿

◎轉地療養願

自分儀

何々病ノ爲メ醫師ノ診斷ニ依リ何日ヨリ何月何日迄何縣何郡市町村何々方ヘ轉地療養仕度候間御認可被成下度別紙診斷書相添此段奉願候也

年　月　日

看守（　）何ノ某

新潟監獄
典獄　殿

◎看護歸省願

自分儀

實養繼父母何々病ノ爲メ危篤ニ付本日ヨリ向何日間看護ノ爲メ欠勤仕度候間御認可被成下度別紙醫師ノ診斷書相添ヘ此段奉願候也（歸省ニ對シテハ危篤ノ旨報知有之候間本日ヨリ向フ何日間看護歸省仕度別紙通知書相添ヘ此段奉願上候也

年　月　日　　看守（　）何之某

新潟監獄
典獄　殿

○脱靴（眼鏡使用）願

自分儀

何々病ノ爲メ本日ヨリ向フ何日間脱靴（眼鏡使用）御認可被成下度醫師ノ證印ヲ受ケ此段奉願候也

年　月　日

新潟監獄
典獄　殿

看守（　）何之某

○欠席届

本日撃劍、柔術、英語練習ニ出席可致筈ノ處（何々病ニ罹リ又ハ何事故ノ爲メ）出席難致候ニ付此段及御届候也

年　月　日

私儀

官氏名㊞

典獄宛

○散宿届

自分儀

今般家族引纏メ（寡子縁組、婚姻、入夫婚姻之爲メ）新潟市何町何番地（何某方）へ散宿候條宿長連署此段及御届候也

年　月　日

看守（押丁）何之某㊞
宿長　何之某㊞

第二十五章　受附勤務心得

第四百六十一條　受附看守ハ人民ニ對シテハ極メテ懇切ヲ旨トシ苟モ粗暴冷酷ニ渉ルカ如キ擧動アルヘカラス

第四百六十二條　參廳者ニ對シテハ温言ヲ以テ之ニ接シ諸願ハ迅速ニ處理シ徒ラニ人民ヲ控待セシムヘカラス

第四百六十三條　入信書ノ到達シタルトキハ受附日誌ニ記入シ封筒ニ番號ヲ付シ官廳宛及職名アルモノハ第一課長ニ在監人ニ對スル分ハ第二課長ニ送付シ認印ヲ受クヘシ

第四百六十四條　在監人ニ接見ヲ乞フモノアルトキハ其住所身分及縁由等ヲ聞取リ接見用紙ニ記入シ第二課看守長又ハ看守部長ニ送達シ若シ刑事被告人ナル時ハ拘置監擔當部長ニ送達スヘシ但接見願人ニハ參廳者ノ順序ニ依リ番號札ヲ渡シ置タヘシ

第四百六十五條　金圓ノ差入ヲ願出タルトキハ在監人トノ關係及ヒ其所用ノ目的ヲ聞取リ差入受附用紙及物品受付簿（金圓ノ部）ニ記入シ歳入歳出外現金出納官吏ニ送付シ領收證書ヲ得テ願人ニ交付スヘシ

第四百六十六條　衣類書籍其他物件ノ差入ヲ願出タルトキハ差入受付用紙ニ記入シ現品ト對照ノ上差入物品受付簿（物品ノ部）ニ記入シ第二課長ヲ經テ第一課領置主任ニ送付シ領收證書ヲ得テ願人ニ交付スヘシ

第四百六十七條　行厨其他飲食物ノ差入願ニ對シテハ前條同樣受附用紙ニ記入シ他ニ差入ナキヤ否ヲ調査シ重複セサルトキ

ハ差入物品受付簿(飲食物ノ部)ニ記入シ差入受附用紙ハ拘置監擔當看守部長ニ送付スヘシ

第四百六十八條　外人ヨリ在監人ニ對シ金圓及物品ノ下附ヲ願出タルトキハ書類受付簿ニ記入シ第二課長ヲ經テ金圓ニ對シテハ歳入歳出外現金出納官吏ニ物品ニ對シテハ第一課領置主任ニ送付スヘシ

第四百六十九條　看守押丁志願書ハ書式ニ違フモノナキヤ否ヲ調査シ書類受付簿ニ登記シ第一課長ニ送達スヘシ

第四百七十條　辯護士ヨリ差出スヘキ辯護屆調印願ハ書類受付簿ニ記入シ第二課長ヲ經由シテ典獄ノ判決ヲ受ケ囚人ナル時ハ第二課當直部長ニ刑事被告人ナルトキハ拘置監看守部長ニ送付シ在監人調印濟ノ上ハ願人ニ下付シ領收ノ證ヲ徵シ置クヘシ

但前項以外ノ調印願ハ第一課領置係ニ送付スヘシ

第四百七十一條　辯護士ヨリ在監人ニ對シ接見ヲ願出タルトキハ辯護士接見簿ニ其要領ヲ記入シ第二課長ヲ經由シテ典獄ノ判決ヲ受ケ刑事被告人ナル時ハ拘置監看守部長囚人ナル時ハ當直看守部長ニ送達スヘシ

第四百七十二條　小包郵便ハ官廳宛ノモノハ受付日誌ニ宛名及差出人並ニ引受局番號重量等ヲ記載シ第一課長ニ在監人ニ對スル分ハ差入物品受付簿ニ詳記シ第一課領置主任ニ送達シ證印ヲ受クヘシ

第二十六章　戒具ノ保管及使用心得

第四百七十三條　戒具トハ捕繩手錠連鎖等ヲ總稱スルモノトス

第四百七十四條　總テ戒具ハ被服擔當看守之ヲ保管スヘキモノ

トス

第四百七十五條　捕繩手錠連鎖ハ常ニ被服庫内一定ノ場所ニ紀律克ク掛ケ置キ其數量ヲ記載シタル札ヲ掛ケ置クモノトス

第四百七十六條　手錠連鎖ハ錆ノ生セサル樣常ニ注意スヘシ

第四百七十七條　戒具ヲ使用セントスル時ハ被服庫擔當看守ヨリ其數ヲ受取リ使用濟ノ上ハ其都度必ス返納スヘシ

第四百七十八條　戒具ハ之ヲ使用スル前ニ當リ悉ク點檢シ充分其用ニ堪ユルヲ認メタル後使用スヘシ

第四百七十九條　戒具ヲ施シタル時ハ必ラス看守長又ハ看守部長ノ立會ヲ受ケ異狀ノ有無ヲ點檢スヘシ

第四百八十條　戒具ノ鍵ハ其擔當看守ニ於テ保管シ散失セサル樣注意スヘシ

第四百八十一條　連鎖ハ一日施シタル以上ハ如何ナル事情アルヲ問ハス看守長又ハ看守部長ノ指揮ナクシテ之ヲ解ク事ヲ禁スス

第二十七章　擊劍練習心得

第四百八十二條　擊劍ハ專ラ護身ノ技法ヲ演習シ事ニ當テ剛毅撓マス自强不息ノ精神ヲ培養スルモノナレハ徒ラニ勝負ヲ爭ヒ粗暴卑劣ノ行爲アルヘカラス

第四百八十三條　練習ノ定日ハ毎周二回トス其日時ハ看守長ヨリ報告スヘキモノトス

第四百八十四條　練習當日ハ非番看守ハ勿論執務中ノ看守ト雖モ練習ノ當時事務ニ差閊ナキ限リ出席スヘキモノトス

第四百八十五條　練習所ニハ左ノ役員ヲ置クモノトス

一　教師　壹名

一　助手　貳名

第四百八十六條　教師ハ教習所擊劍教師ヲ以テ之ニ充テ練習當日ニハ必ス出席シ練習者ノ体形進退氣合打刀受刀其他ノ術ニ注目シ法ノ利益ヲ授クヘキモノトス

第四百八十七條　助手ハ練武ノ器具ヲ管理シ常ニ一定ノ場所ニ整置シ保存ノ方法ニ注意スヘシ

第四百八十八條　練習所ニハ出席簿ヲ備ヘ置キ助手之ヲ擔當シ出席者ノ試合度數ヲ記入スヘキモノトス

第四百八十九條　練習當日出席スヘキモノニシテ疾病ノ爲メ出席スル能ハサルモノハ時限前書面ヲ以テ届出ツヘシ

第四百九十條　練武ノ器具ハ貸與スヘシト雖モ襦袢ハ自辨トス

第四百九十一條　技能ハ教師及助手ニ於テ之ヲ判定シ毎年二回技術優劣ノ試驗ヲ開クモノトス

第四百九十二條　練習者ハ三回以上ノ試合ヲ爲スニアラサレハ退場スヘカラス但一回若クハ二回ハ必ス教師又ハ助手ノ授法ヲ受クヘシ

第二十八章　操典練習心得

第四百九十三條　看守ハ常ニ操典ヲ練習シテ嚴肅ナル紀律ノ中ニ動作シ以テ堅忍不拔ノ精神ヲ表示スルヲ要ス

第四百九十四條　練習定日ハ一周一回若クハ二回トシ其時々看守長ヨリ報告スヘキモノトス

第四百九十五條　教官ノ號令ニハ絶對ニ服從シ練習場ニ於テ教官ニ質問シ又ハ同僚交談スルカ如キヿアルヘカラス

第四百九十六條　練習ノ際ハ劍ヲ脫シ短靴ヲ穿用スヘシ

第四百九十七條　教官ノ說明スルヿハ一々記臆ニ存シ置キ職務ノ餘暇自習スルノ注意アルヲ要ス

第四百九十八條　練習ノ終リ又ハ練習中列中ヨリ各一名宛ヲ出シ號令官トシ他ノ列員ヲシテ運動セシムルヿアルヘシ

第四百九十九條　操典ノ方法及順序ハ左ノ操典ニ依リ施行スヘキモノトス

操典

総則

第一　紀律ノ習練ハ外部ヨリ精神ヲ涵養スルニ在リ精神ノ涵養ハ内部ヨリ紀律ヲ習練スルニ在リ故ニ紀律ト精神トハ常ニ一ニシテ不二ナク外部ト内部トハ互ニ相待ツテ須臾モ相離レサルヲ要ス而シテ紀律ノ消長ハ亦タ事務死活ノ上ニ懸レリ之レヲ以テ監獄ニ從事スルモノハ常ニ能ク之レニ習練シテ嚴肅ナル紀律ノ中ニ動作シテ以テ堅忍不拔ノ精神ヲ表示セサル可ラス

第二　大凡ソ操練上ノ動作ハ必ス號令ヲ待ツ號令ノ發動ハ一心ニ存ス而シテ其發動ハ豫令ト動令トニ分チ豫令ハ明瞭ニ長キヲ尊ヒ動令ハ快活ニシテ激烈ニ短キヲ宜シトス其間適當ナル時間ヲ存スヘシ（適當ナル時間トハ爾後ノ動令ニテ如何ニ動作スヘキ判斷ニ費ス時間ヲ云フ）號令快活ナル片ハ從テ動作ヲ活潑ニス所謂動作ハ號令ノ反響ナリ故ニ號令ハ何等ノ場合ヲ問ハス同一ノ要領及活音ヲ以テサヽルヘカラス（操典中豫令ニハ片假名ヲ付シ區別下ス）

第三　號令ハ絶對的命令ニシテ列員ハ如何ナル場合ト雖トモ之レニ違フヿヲ得ス

第四　動作ハ身心共ニ精神ノ充實セサル可ラス故ニ外形ノ汚飾ニ渉リ皮想ノ進歩ニ流ル、如キハ尤モ嚴禁ナリ

第五　點檢召集及、拜賀、祭典、送迎、會葬等総テ多數會合ノ場合

ニ於テハ必ス操典ヲ活用スルモノトス

第六　總テ操典ニハ左ノ隊語ヲ用ユ

一　前後ノ距離ヲ距離ト稱シ

一　左右ノ距離ヲ間隔ト稱シ

一　横縱ニ在ツテハ右方ヲ右翼ト云ヒ左方ヲ左翼ト稱ス

一　側面ニ在ツテハ前方ヲ先頭ト云ヒ後方ヲ後尾ト稱ス

一　距離間隔ニハ米突尺ヲ用ユ

第一章　各個教練

第一　不動ノ姿勢

不動ノ姿勢ハ總テ教練ノ基礎ニシテ之ノ姿勢ヲ執ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ付ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ密着シ兩足尖ハ矩形ヨリモ稍狹ク（約六十度）開キ齊シク外側ニ向ケ兩膝ハ凝ラサスシテ之レヲ伸ハシ上体ヲ正シク腰ノ上ニ落チ付ケ且ツ少シク前ニ傾ケ兩肩ハ故ラニ張ルヿナク後方ニ引キ一樣ニ之レヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ハ僅カニ前方ニ向ケ指ハ輕ク屈メテ之レヲ並ヘ小指ヲ袴ノ縫目ノ後ロニ當テ頭ハ正シク且ツ自然ニ保チテ頸ヲ眞直ニシ顎ヲ輕ク頸ニ近ツケ兩眼ハ前面ヲ直視ス

兩足ノ位置正シカラサレハ從テ兩肩ノ位置偏移ス故ニ此ノ動作ニ於テ尤モ緊要ナルハ兩足ヲ正シク一線上ニ置クニアリ此姿勢ハ平常ノ起居勤務敬禮及上官ニ應對スル時執ルベキ動作トス

休憩

第二　不動ノ姿勢ニアル時之ヲ休憩セシムルニハ左ノ號令ヲ下

ス

休メ

此號令ニテ姿勢ハ不動ニ意ヲ止ムルヿナク先ツ右足ヲ舊位ニ置キ左足ヲ出シテ休憩ス若シ右足ヲ休憩セント欲セハ左足ヲ舊位ニ正シク復シ右足ヲ出シテ休憩ス然レ𪜈談話スルヿハ嚴禁ス

注意休メノ姿勢ハ姿勢ニ意ヲ止ムルヿナシト雖モ腰已上ノ姿勢ハ可成變ヘサルヲ宜シトス何トナレハ此姿勢ハ唯ニ操練上ニ止マラスシテ警官司獄官ノ平常ノ姿勢トシ要求セサル不可ヲ以テ如此スル片ハ遂ニ慣習トナリテ別ニ意ヲ用ヘスシテ直立セハ自然不動ノ姿勢ヲナシ得ルニ至ル

頭首左右ノ運動

第三　此運動ハ二人以上並列スル片已ノ位置ヲ定ムルニ當リ基準ノ方ニ眼ヲ注ク爲メ若クハ敬禮ノ片用ユル運動ニシテ之レカ爲メ左ノ號令ヲ下ス

頭右(カシラ)(左)

此號令ニテ頸ヨリ以下ハ不動ノ姿勢ヲ變スルヿナク迅速ニ頭首ヲ右(左)正面ヨリ「約六十度」ニ向フ直(ナオ)レ

第四　之ノ號令ニテ頭首ヲ正面ニ復ス

注意此運動ニ於テ反對ノ肩ノ出テサルニ注意スヘシ

各個ノ間隔ハ約十五珊知米突トス之ヲ執ルニハ左ノ號令ヲ下ス

肘(ヒヂ)ヲ曲ケ

此號令ニテ右手ノ拇指ヲ後ロニ他ノ四指ヲ前ニシ外股ヲ

摺リツ、尤モ迅速ニ腰骨ノ上ニ上ケ手首ヲ曲クルヿナク肘ヲ全ク側方ニ張ル

直レ

之ノ號令ニテ活潑ニ垂下シ舊ノ如クス

第五　轉回

轉回ハ正面向キニアル者ヲ右方又左方ニ向カシムル動作ニシテ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ右(左)

此號令ニテ各員ハ腿ヲ屈スルヿナク左足尖ト右足ヲ少シク上ケ左踵ニテ(環ノ四分一)右(左)ニ向ケ

注意腰ト足ノ運動ハ上体ニ先ンスルノ癖アリ一致スルヲ要ス

第六　半轉回

半轉回ハ半バ右(左)向カシムル動作ニシテ其度ハ四十五度トス

半ハ右(左)向ケ右(左)

此ノ號令ヲ以テ轉回ト同方法ヲ以テ環ノ八分ノ一右(左)ニ向ク

第七　右轉回

正面向キニアルモノヲ後方ニ向カシムル動作ニシテ左ノ號令ヲ下ス

廻レ右

第一動ニテ右足ヲ其方向ニ後ロニ引キ足尖ヲ左踵ニ接ス

注意此ノ時上体ノ位置ヲ變スルヿナシ

第二動兩腿ヲ屈クルヿナク兩足尖ヲ輕ク上ケ兩踵ニテ強ク迅速ニ全ク後ロニ向キ廻ワル

注意轉回ノ片体ノ重ミヲ一樣ニ両踵ニ托スルヲ要ス

両足ノ位置ハ恰モ不動ノ姿勢ニ在ルヰ右足ヲ前方ニ出シタル如ク位置スルヲ要ス

第三動右足ヲ左足ニ引付ク

注意足尖ヲ以テ地面ヲ摺ル如ク引着ク

速歩及停止

速歩ハ一歩ノ長サ踵ヨリ踵マテ七十五珊知米突ニシテ其速度ハ一分時間ニ百十四歩トス之ヲ行フニハ左ノ號令ヲ下ス

前へ進メ

前へノ豫令ニテ各員ハ体ノ重ミヲ全ク右足ノ上ニ移ス進メノ動令ニテ左脚ヲ輕ク屈メテ前ニ出シ足尖ヲ少シク下ケ且ツ僅カニ外側ニ向ケ上体ヲ少シク前ニシ右足ヨリ七十五珊知米突ノ所ニ脚ヲ伸シツヽ故ラニ地面ヲ敲クヿナク平ニ踏ミ付ケ同時ニ腿ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸ハシ全ク体ノ重ミヲ踏着ケタル足ノ上ニ移ス

左足ヲ踏着クルト同時ニ右踵ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キ説キ示セント同法ニテ右足ヲ同距離ノ所ニ踏着ケテ行進ヲ續行シ両足ヲ交叉スルヿナク膝ヲ必要ヨリ上クルヿナク両肩ヲ回スヿナク頭ヲ眞直ニ保チ眼ヲ前方ニ注キ両臂ヲ自然ニ振動ス

注意足歩ハ最初ヨリ右ノ諸要領ヲ要求スルハ頗ル至難ノ業ニシテ務メテ之ヲ修正スルヰハ却テ身体ニ鞏固ヲ來シ一見木偶ノ歩行スルニ似タル醜狀ヲ呈ス故ニ先ツ初メハ自然ノ歩法ニ任シ定矩ノ距離ト速度ヲ一定ニスルヿヲ務メ然ル后身体ノ姿勢ニ及ヒ稍熟練スルニ至ツテ速歩ノ諸

要領ニ叶フ如ク自然ニ修正スルヲ可トス

之ヲ止ムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊止レ

此ノ令ニテ上ケタル足ヲ前ニ踏着ケ後ナル足ヲ引着ケテ止ル

注意止レノ號令ハ通常右足ノ地ニ着クトキ下ス然ルトキハ右足ヲ前ニ踏出シ次ニ左足ヲ引キ付ケテ止ル

速歩ヲ長ク續行スルトキハ教官ハ時ニ左ノ號令ヲ下シ正規ノ歩調ヲ止メシムルヿヲ得(市中又ハ人民群集ノ場所等ハ特ニ静粛ト威厳ヲ保チ速歩ヲ以テ行進スルモ其時間稍長キニ渉リ疲勞甚シキト認ムルトキ等)

歩調止メ

此號令ニテ正規ノ歩法ヲ守ルヿナク行進ス但姿勢ト歩度ヲ失ハサルヿニ注意シ又列伍ヲ組ミタルトキハ列間距離ヲ八十珊知米突ニ開キ行進ス

再ヒ正規ノ歩法ニ復サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス(例令ヘハ上官ノ來ルニ逢フトキ等)

歩調取レ

此號令ニテ定規ノ列間距離ニ復シ全ク速歩ノ調子ヲ取ル

足踏

足踏ハ各員及部隊ノ行進中僅少ナル時間ヲ排去スヘキ障碍物ニ遭遇スルカ或ハ縱隊運動ニヨリテ列間距離ノ縮ミタルトキ又ハ横隊行進中著シク波狀ヲ呈シタルトキ等ニ用ユルモノニシテ左ノ號令ヲ下ス

足踏進メ

此號令ニテ進ムヿナク少シク膝ヲ屈シテ交々兩足ヲ踏付

ケテ調子ヲ取ル

再ヒ之レヲ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前(マエ)ヘ進メ

進メノ動令ニテ行進ヲ起ス

注意進メノ號令ハ多ク左足ノ地ニ着ク時下ニシテ右足ヲ踏付ク更ニ左足ヨリ前進ス

第十 横歩

横歩ハ列員間隔ノ開閉或ハ部隊ニ於テ側方ニ僅少ナル位置ヲ變スル時用ユルモノニシテ之レカ爲メ左ノ號令ヲ下ス

右(左)(横)(コヽ)歩(アシ)進メ分隊止レ

進メノ號令ニテ兩足尖ノ角度ヲ變スルヿナク右(左)足ヲ側方約三十珊知米突ノ處ニ踏付ク次ニ左(右)足ニ引着ケ速歩ノ速度ヲ以テ行フ

注意腰已上ノ姿勢ヲ崩スヿナキヲ要ス

第十一 退歩

退歩ハ僅カニ後方ニ位置ヲ變スル爲メ用ユル運動ニシテ左ノ號令ヲ下ス

退(アト)ヘ進メ分隊止レ

此號令ニテ速ニ左足ヲ後方ニ引キ足尖ヨリ地面ニ踏付ケ前足ヨリ半歩ノ所ニ置キ次ニ右足ニテモ同動ヲ爲シ遠歩ノ速度ヲ以テ續テ退歩ス

注意退歩ハ尤モ足ヲ交叉スルヿナク又前方ニ目標ヲ撰定スルヲ要ス

第十二 駈歩

駈歩ハ急速ヲ要スル場合ニ行フモノニシテ左ノ號令ヲ下

ス一歩ノ長サハ八十五珊知米突ニシテ其ノ速度ハ一分間百八十歩トス

駈足(カケアシ)進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リツヽ腰骨ノ上ニ上ケ肘ヲ後ロニシ輕ク体ニ接ス(拳ノ握リ方ハ拇指ヲ食指ト中指ノ間ニ置ク)

動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其法脚ヲ拗シク屈メテ僅カニ膝ヲ上ケ右足ヲ以テ身体ヲ飛揚シ足尖ヨリ下シテ右足ヨリ八十五珊知米突ノ所ニ踏着ク次ニ左脚ト同法ヲ以テ前ニ出シ常ニ体ノ重ミヲ踏着ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振動シ續テ行進ス之レヲ止メ又ハ速歩ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊(ブンタイ)止レ(速歩進メ)

分隊止レノ號令ハ通常左足ノ地ニ着ク片下スモノニシテ然ルトキハ右足ヲ踏出シ体ノ前進力ヲ殺キ更ニ左足ヲ踏付ケ右足ヲ引着ケテ止リ兩臂ヲ垂下ス速歩ニ移ルモ同シ方法ニ左足ヨリ定規ノ速歩ニ移ルモノトス

注意駈歩モ速歩ニ就テ説明セシ如ク最初ハ十歩已内ノ距離ヲ各自ニ行進停止セシメ漸次諸要領ヲ要求スルモノトス

早駈

早駈ハ尤モ急速ノ塲合ニ用ユルモノニシテ或ル一定ノ距離ヲ定メ行フモノトス

早駈(ハヤカケ)進メ

此號令ニテ姿勢ニ搆フコトナク最大速力ヲ以テ前進競爭ス

注意早駈ヲ行フタルトキハ著シク疲勞ヲ來シタル時ト雖

ヒ決シテ座臥ヲ許サス直チニ集合シ整然タル運動ヲ行フヲ可トス之レ全力ヲ費シタル後尚余裕ヲ要スル場合多キヲ以ナリ

第十三　行進間右(左)向

行進間右(左)向ケヲナスニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ前ヘ進メ

進メノ動令ハ右(左)足ノ地ニ着クトキ下スモノニシテ左(右)足ヲ前ニ踏出シ其足尖ニテ右(左)ノ方ニ向キ廻リ更ニ右(左)足ヨリ行進ヲ續行ス

第十四　斜行進

斜行進ヲ行フニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ右(左)ヘ進メ

進メノ號令ニテ列員ハ前ノ要領ニテ体ヲ半ハ右(左)ニ向ケ行進ス

再ヒ直行進ニ復スルニハ左ノ號令ヲ下ス

前ヘ進メ

此號令ニテ斜行進ト同法ニテ正面ニ復シ行進ス

第十五　行進間右轉回

行進間ノ右轉回ハ全ク背面ニ向キ行進スルモノニシテ左ノ號令ヲ下ス

廻レ右前ヘ進メ

進メノ號令ハ右足ノ地ニ着クトキ下スモノニシテ列員ハ左足ヲ前ニ踏ミ付ケ其ノ足尖ニテ後ロニ全ク向キ廻リ右足ヲ左足ニ引付ケ更ニ左足ヨリ行進ヲ起ス

之レヲ正面向キニナスト同時ニ止ムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻レ右(マワレミギ)へ止レ

止レノ號令ハ右足ノ地ニ付クトキ下ス然ルトキハ左足ヲ前ニ踏着ケ其ノ足尖ニテ後ロニ廻リ右足ヲ左足ニ引付ケテ止ル

注意最初ハ三擧動ニ區分シ進メノ號令ニテ左足ヲ前ニ踏出ス但シ右足ノ前方ニシテ稍右方ヲ宜シトス

二動兩足尖ニテ臑ヲ屈スル事ナク後ロニ向キ廻ワル

三動右足ヲ左足ニ引付ク

第十六　解散集合

列ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解(ワカ)レ進メ

進メノ號令ニテ一齊ニ擧手注目シ指揮官ノ答禮ヲ待ツテ速カニ解散ス

但シ演習ヲ終リ室内ニ入ラサル限リハ散解ノ地點ヨリ遠ク離ルヽヲ得ス演習ノ終リニ用ユル解散ハ豫メ演習終リト云フ

再ヒ之レヲ集合スルニハ左ノ號令ヲ用ユ

集(アツマ)レ——一列横隊(二列横隊)

此ノ號令ニテ右翼若クハ先頭ノ者ハ速カニ教官ノ前方六歩ノ處ニ至リ之レニ面ス其他ノ列員ハ示サレタル隊形ニヨリ番號順序ニ尤モ速ニ而シテ靜肅ニ集合スルモノトス

第一　小隊教練

小隊ノ編成

小隊ハ列員身幹ノ順席ニ從ヒ前列ヨリ六十珊知米突ノ距離ヲ隔テヽ二列ニ編成シ其前後ニ立チタル二人ヲ伍ト云フ各伍中長大ナル者ヲ第一列ニ置ク小隊ノ列員奇數ナル

時ハ左翼ノ第二列ヲ欲ク之レヲ欲伍ト云フ後列員ハ正シク前列員ニ重ナリ同方向ニ位置ス

各列員ノ間隔ハ肘々互ニ接觸スルヿナク行進ニ當リ手ヲ前後ニ振動スルヲ妨ケサルヲ要ス

小隊ノ各伍ハ第一列正面ニ在テ右ヨリ左ニ番號ヲ付ス

小隊ヲ分テ若干分隊トナシ小隊中ニ於テ右翼ヨリ順席ニ番號ヲ付ス其ノ分隊ノ人員ハ通常四伍乃至八伍トス

小隊ノ兩翼共前後ニ二名ノ嚮導ヲ置ク兩翼ノ分隊長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ右ニ在ルヲ右嚮導左ニ在ルヲ左嚮導ト云フ其ノ他ノ分隊長ハ其ノ分隊ノ中央後后列ヨリ二歩ノ處ニ占位ス之ヲ押伍ト云フ

第二　整頓ノ要領

整頓完全ナル時各列員ハ整頓線上ニ正規ノ姿勢ヲ取リ頭ヲ整頓翼ニ右(左)轉スル時右(左)眼ヲ以テ其ノ右(左)列員ノ胸ヲ視シ他眼ヲ以テ全線ヲ通視スルヲ得ルナリ

列員整頓線ニ就ク時ハ上体及頭ヲ前後スルコトナク正シキ姿勢ヲ以テスルヲ要ス

列員ノ足ノ位置正シカラサル者アル時ハ之レカ爲メ兩肩ノ線整頓上ニ非ラスシテ其ノ害自己ニ止マラス隣員ニ波及スルモノナリ斯クノ如キ時ハ兩足ヲ見セシメテ之レヲ修正シ遂ニ各員ヲシテ整頓ノ要領ヲ會得シ整頓ノ整否ヲ自ラ識別シ得ルニ至ラシム可シ然ル時ハ迅速且正格ニ整頓シ教官「前ヘ」「後ヘ」ト呼ヒ列員ヲ進退セシムル事ナキニ至ルヘシ

第三　各個整頓

整頓ノ要領ヲ知得セシメン爲メ一列ニ在リテ各個整頓ヲ

行フ之レカ爲メ左ノ號令ヲ下ス

右(左)二人三歩(四歩五歩)前ヘ進メ

此ノ號令ニテ右(左)嚮導及(右)左ノ二人ハ示サレタル歩數ヲ前進シ嚮導ニ準フ小隊長ハ其整頓ヲ正ス

次ニ

三番右(左)ヘ準ヘ

此ノ號令ニテ三番員ハ基準員ノ前進シタル丈ケノ歩數ヲ前進シ最後ノ一歩ヲ尠シク縮メテ止リ右手ヲ臆骨ノ上ニ上クルト同時ニ首ヲ整頓翼ノ方ニ向ケ胸ヲ屈クルコトナク小サキ摺足ヲ以テ基準員ニ準フ於是嚮導ハ前后(マエアト)ト呼ヒ其整頓ヲ正ス而シテ已下順次末尾ニ至ル

直レ

此ノ號令ニテ一齊ニ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ右手ヲ活

潑ニ垂下ス

斯クノ如クシテ二人若クハ三人同時ニ整頓セシム熟練スルニ至レハ斜方向ノ整頓ヲ施行スヘシ

小隊整頓ノ一

整頓ヲナスニハ先ツ基準員ヲ出シ之レニ整頓セシム之レカ爲メ左ノ號令ヲ下ス

右(左)二組(二人)三歩(四歩五歩)前ヘ進メ

此ノ號令ニテ右(左)翼嚮導及右(左)二伍(二人)ハ指示セラレタル歩數丈ケ前進シ嚮導ニ整頓ス

小隊長ハ其ノ整頓ヲ正ス次ニ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ヘ準ヘ

準ヘノ號令ニテ前ノ要領ニ依テ整頓線ニ就ク後列員及押伍ハ前列員ニ正シク重ナク距離ヲ取リ然ル後右(左)方ニ

整頓ス嚮導ハ已レニ近キモノヨリ逐次整頓ヲ正ス小隊長ハ小隊ニ面シ動作ヲ監視ス整頓終レハ左ノ號令ヲ下ス

直レ

此ノ號令ニテ前ニ同シ

第五　小隊整頓ノ二

兩翼ノ嚮導ノミヲ前進セシメ之レニ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導三歩(四歩五歩)前ヘ進メ

此ノ號令ニテ兩翼嚮導ハ指示セラレタル歩數ヲ前進ス小隊長ハ其ノ側方ニ至リ兩嚮導ノ一直線ニ在ルヤ否ヤヲ撿ス次ニ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ヘ準ヘ

列員ハ前同要領ヲ以テ整頓線ニ就ク此ノ時兩翼嚮導ハ已ニ近キモノヨリ列員ノ整頓ヲ正ス

直レ

第六　小隊ノ背面向

小隊ヲ背面ニナスニハ左ノ號令ヲ下ス

廻レ右

右ノ號令ニテ小隊ハ背面ニ向キ兩翼ノ嚮導及欲伍ハ前列ニ出ツ停止或ハ行進セル時押伍列ヲ後方ニ移スニハ左ノ號令ヲ下ス

押伍後ヘ

第七　各押伍ハ駈歩ニテ最近翼ヲ經テ後方ニ至リ舊位ニ對シ位置シ或ハ行進ス

横隊ノ正面及背面行進

行進ハ嚮導ヲ右方ニ取ルヲ常トス若シ左方ニ取ルトキハ特

ニ之レヲ示ス

小隊長ハ行進目標ヲ高聲ヲ以テ右(左)嚮導ニ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

前ヘ進メ

次ニ要スルハ嚮導右(左)ノ號令ヲ下ス嚮導ヲ呼ハサル片ハ常ニ右ニ在ルモノトス

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準フ嚮導ハ示サレタル目標ニ向ヒ列員ニ關スルヿナク正シキ歩度ト速度ヲ以テ正面ト直角ニ行進ス之カ爲メ示サレタル目標ニ向ヒ中間點ヲ撰定スヘシ各列員ハ嚮導方ニ整頓スル爲メニ頭ヲ其ノ方ニ轉スルヿナク常ニ隣員ニ注意スルヲ要ス然レトモ一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ト間隔保存トニ依テ保持シ得ルモルモノトス

行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルニハ嚮導左(右)ノ號令ヲ下ス

背面行進

背面行進ヲナスニハ各個教練第十五ノ例ニ從フ

行進間列員ヘノ遵守スヘキ規則

一　嚮導ハ何ノ方ニ在ルモ常ニ頭ヲ正シク保ツ事

二　整頓翼ヨリ押シ來ル片ハ之レニ從ヒ反對翼ヨリ押シ來ル片ハ之ニ抗抵スル事

三　整頓線ヨリ進ミ或ハ后レ又ハ間隔ヲ失フタル時ハ漸次同復スヘキヿ

四　若シ歩ノ違フ時ハ速ニ嚮導ノ方ナル隣員ノ歩ニ準フヿ

長巨離ノ善良ナル正面行進ハ総テ密集隊運動ノ基礎トス